RICOH

CX3

使用説明書 カメラ編

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能のほか、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

付属の電池は、使用する前に充電する必要があります。ご購入時の電池は、充電されていません。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社 Web サイトからお願いいたします。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、E メール（ファームウェアなどのサポート情報掲載）の配信を行っております。

リコーフォトギャラリー RING CUBE

RING CUBE は、いつでも、気軽に、より多くのみなさんに参加していただくためのフォトギャラリーです。

8F ギャラリースペースでは、プロ・アマを問わず多彩なジャンルの写真展を開催。

9F には歴代のリコーカメラや新製品を展示しているほか、ワークショップスペースにて各種セミナーを実施しています。お気軽にご利用ください。

http://ringcube.jp/

東京都中央区銀座 5-7-2
三愛ドリームセンター 8F/ 9F（受付 9F）
開館時間：11:00 ～ 20:00（火曜日休館）
お問い合わせ：03-3289-1521

はじめに

この使用説明書には、本カメラを使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本カメラの機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽などの著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変などすることは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本カメラなどの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本カメラは国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、以下のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする 〈電波障害自主規制について〉 この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って発生する可能性がある内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

❗	❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
⃠	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 ⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。 ●表示例 意味：接触禁止　意味：分解禁止

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 危険

分解禁止	●カメラを分解、修理、改造しないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険があります。
分解禁止	●電池を分解、改造、直接ハンダ付けしたりしないでください。
禁止	●電池を火の中に投入したり、加熱したり、火のそばや車の中など温度が高くなる場所で使用したり、放置しないでください。また、水や海水などにつけたり、濡らさないでください。
禁止	●電池に釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えないでください。
禁止	●外傷、変形の著しい電池は使用しないでください。

⚠ 警告

●万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態がみられる場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかに電池を取り外してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

●万一、機械内部に異物（金属、水、液体など）が入った場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかに電池とメモリーカードを取り出してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

●画像モニターが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一、次の状況になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水を流しせっけんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分洗浄した後、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を与えて吐き出させた後、医師の手当てを受けてください。

●電池の液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。

- この製品で指定している電池以外は、使用しないでください。
- 金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。
- 使用中や充電中、液漏れしたり、異臭がする、変色するなどの異常がある場合は、ただちにカメラや充電器から取り外し、火気から遠ざけてください。

●電池の充電による火災、感電、破裂の防止のため、次のことをお守りください。

- 表示された電源電圧以外の電圧を使用しないでください。また、タコ足配線や延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。また、電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。
- 布などに包んで使用しないでください。

● この製品で使用している電池やSDメモリーカードを誤って飲み込むことがないよう、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。ただちに医師と相談してください。

● この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供には「安全上のご注意」や「使用上のご注意」の内容が理解できずに事故発生の原因となります。

● 落下や損傷により内部が露出したときは、内部には手を触れないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険性があります。感電や火傷に注意しながら速やかに電池を取り出してください。破損したときは、お買い上げの店またはリコー修理受付センターに連絡してください。

● 台所などの湯煙や湿気の当たるところ、水気のあるところでは使用しないでください。火災や感電の原因となります。

● 引火性ガスやガソリン、ベンジン、シンナー等の近くで使用しないでください。爆発や火災、火傷の原因となります。
● 航空機の中など、使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。事故等の原因となります。

● 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。
● 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用のACアダプターをご利用ください。指定以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

● 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などに充電器やACアダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 注意

● 電池から漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損した電池に触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。(せっけんは使用しないでください)
また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

● 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。

● カメラを濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。

● 車両(自転車、車、列車等)の運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。交通事故等の原因となります。

別売り品について	別売り品をお使いになるときには、各製品の使用説明書を操作の前に必ずお読みください。

使用説明書の構成について

CX3 には、以下の 2 種類の使用説明書が付属しています。

	『使用説明書（カメラ編）』（本書）
	カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。
	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF ファイル）
	カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。 『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属 CD-ROM 内の以下のフォルダに収録されています。 各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。 使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダから PDF ファイルをハードディスクにドラッグしてください。

本カメラには、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア Irodio Photo & Video Studio（Windows 専用）が付属しています。Irodio Photo & Video Studio の使い方については、Irodio Photo & Video Studio のヘルプを参照してください。Irodio Photo & Video Studio についてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター

ナビダイヤル：0570-02-3500
TEL：06-6633-2990（PHS やナビダイヤルをご利用できない場合）
FAX：06-6633-2992
〒 556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70 パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日　10：00 ～ 18：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、Irodio Photo & Video Studio の最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/

もくじ

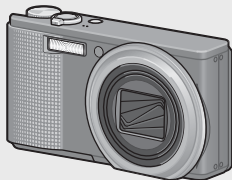
7 セットアップメニュー 92

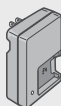
基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。
※同梱品の形状は、実際とは異なる場合があります。

- **CX3**
  本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

- **電池**

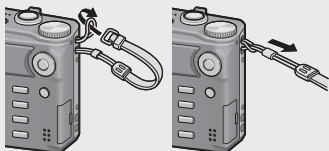
- **充電器**

- **USB ケーブル(mini B タイプ)**
- **AV ケーブル**
- **ハンドストラップ**
- **使用説明書(カメラ編)**
- **CD-ROM****(☞P.103)**

別売り品について

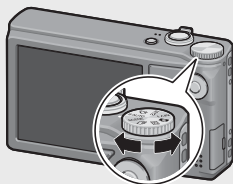
- **AC アダプター(AC-5b)**
  家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。
- **ソフトケース(SC-90)**
  本カメラのカメラケースです。
- **電池(DB-100)**
- **充電器(BJ-10)**
- **ケーブルスイッチ(CA-1)**
  カメラのUSB端子に接続して、シャッター操作を行います。
- **ネックストラップ(ST-2)**
  「RICOH」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。

メモ --

ハンドストラップ・ネックストラップの付け方

ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。ネックストラップは先端を結合部より外し、図のように取り付けます。

- 別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ(http://www.ricoh.co.jp/dc/)をご覧ください。

モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせてから行います。

モードダイヤルのマークと働き

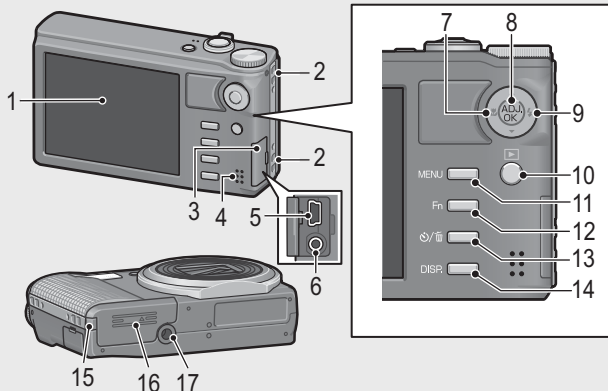
マーク	機能	働き	参照先
	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.25
MY1、MY2	マイセッティングモード	［マイセッティング登録］であらかじめ登録した設定で撮影します。	P.97
	動画モード	動画を撮影できます。	P.61
S-AUTO	シーンオートモード	カメラが自動的に最適なシーンモードを選択して撮影します。複雑な設定をすることなく、撮影できます。	P.31
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。	P.50
	連写モード	いろいろな連写撮影ができます。	P.58
DR	ダイナミックレンジダブルショットモード	明暗差が大きい場合でも、明るい部分から暗い部分まで自然な画像を撮影できます。	P.56

カメラの各部の名称

カメラ本体

前面

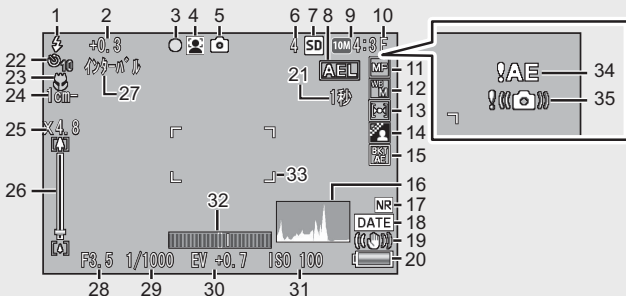
	名称	参照先
1	モードダイヤル	P.13、25、31、52、56、58、61
2	シャッターボタン	P.25
3	POWER（電源）ボタン	P.23
4	マイク	P.61
5	レンズカバー	ー
6	ズームレバー（望遠）／（広角）（拡大表示）／（サムネイル表示）	P.27、32、34
7	フラッシュ発光部	P.29
8	AF 補助光／セルフタイマーランプ	P.30、94
9	レンズ	ー

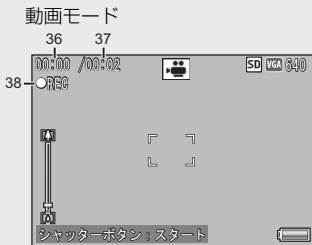
背面

	名称	参照先
1	画像モニター	P.16
2	ストラップ取付け部	P.12
3	端子カバー	P.91、99、107、109
4	スピーカー	P.62
5	USB 端子	P.99、107、109
6	AV 出力端子	P.91
7	🌷（マクロ）	P.28
8	ADJ./OK ボタン（※）	P.44
9	⚡（フラッシュ）	P.29
10	▶（再生）ボタン	P.32
11	MENU ボタン	P.52、66、79、92
12	Fn（ファンクション）ボタン	P.46
13	⏱（セルフタイマー）／ 🗑（削除）ボタン	P.30、35
14	DISP. ボタン	P.34、38、40
15	電源（DC 入力）ケーブルカバー	P.129
16	電池／カードカバー	P.22、129
17	三脚ネジ穴	P.123

（※）本文中の「ADJ./OK ボタンを上下左右に押す」という説明は、ADJ./OK ボタンを ▲（上）▼（下）🌷（左）⚡（右）の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OK ボタンを押す」という説明は、ADJ./OK ボタンの真中を押し下げることを意味します。

画像モニターの表示

撮影するときの画面

静止画モード

	名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.29
2	フラッシュ調光補正	P.69
3	マルチターゲット AF 合焦マーク	P.72
4	シーンモード／＋通常撮影／連写モード	P.50、57、58
5	撮影モードの種類	P.13
6	残り記録枚数	P.125
7	記録先	P.20
8	AE ロック	P.48
9	画像サイズ	P.67
10	画質	P.67
11	フォーカスモード	P.67
12	ホワイトバランスモード	P.77
13	測光モード	P.68
14	画像設定	P.68
15	ブラケット撮影	P.73
16	ヒストグラム表示	P.42
17	ノイズリダクション	P.69

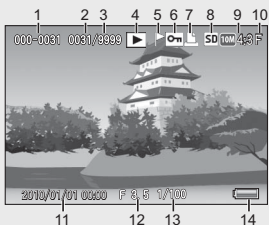
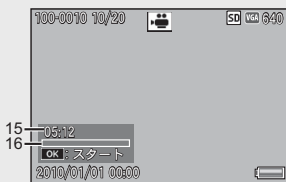
	名称	参照先
18	日付入れ撮影	P.71
19	手ブレ補正	P.70
20	電池マーク	P.18
21	長時間露光	P.69
22	セルフタイマー	P.30
23	マクロ撮影	P.28
24	最短撮影距離	P.95
25	デジタルズームの倍率、オートリサイズズーム	P.28、98
26	ズームバー	P.27
27	インターバル撮影	P.70
28	絞り値	P.122
29	シャッタースピード	P.71
30	露出補正	P.76
31	ISO 感度	P.78
32	水平インジケーター	P.41
33	AF 枠	P.25
34	露出警告マーク	P.76
35	手ブレ注意マーク	P.27、70

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
36	記録時間	P.125	38	録画中マーク	P.61
37	残り記録時間	P.125			

メモ --

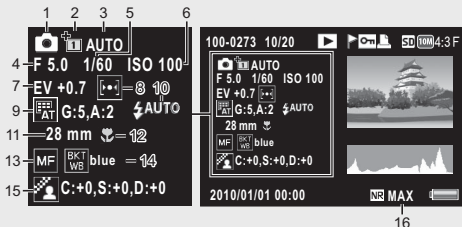
残り記録枚数が 1 万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	ファイル番号	ー	9	画像サイズ	P.67
2	再生ファイル数	ー	10	画質	P.67
3	総ファイル数	ー	11	撮影した日付	P.24
4	モードの種類	ー	12	絞り値	P.122
5	画像クリップ〔設定〕	P.82	13	シャッタースピード	P.71
6	プロテクト	P.89	14	電池マーク	P.18
7	DPOF	P.90	15	記録時間または経過時間	ー
8	再生元	P.20	16	インジケーター	ー

メモ

- 使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。
- DISP. ボタンを押すと、撮影時の詳細情報を表示できます。（☞P.38）

	名称	参照先
1	撮影モード	ー
2	＋通常撮影	P.57
3	ダイナミックレンジ拡大効果	P.57
4	絞り値	P.122
5	シャッタースピード	P.71
6	ISO 感度	P.78
7	露出補正	P.76
8	測光モード	P.68

	名称	参照先
9	ホワイトバランス／ホワイトバランス補正	P.77、87
10	フラッシュのモード	P.29
11	ズームの焦点距離	P.27
12	マクロ撮影	P.28
13	フォーカスモード	P.67
14	オートブラケット	P.73
15	画像設定	P.68
16	ノイズリダクション	P.69

電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ充分あります。
	電池の残量が減りはじめました。充電をお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電してください。

準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ --

- 電池を取り出すときには、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.23 をご覧ください。

電池について

本カメラでは、専用のリチウムイオン電池「電池 DB-100」（付属）を使用します。電池は、使用する前に充電する必要があります。ご購入時の電池は、充電されていません。

 撮影可能枚数 --

撮影可能枚数（電池の持続）の目安：約 310 枚

※［画像モニター節電］（☞P.94）が［ON］のとき

- 撮影枚数は CIPA 規格に準拠した測定条件によるものです。
  （温度 23℃、画像モニターオン、30 秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2 回に 1 回フラッシュ発光、10 枚撮影するごとに電源のオフ／オンを繰り返し）
- ［画像モニター節電］が［OFF］の場合は、約 290 枚となります。
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。（☞P.38）
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生などの動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をお勧めします。

注意 --

- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-100）をご使用ください。当社指定の電池以外は使用しないでください。

SD メモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーまたは SD メモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約88MB です。

初期化について

新しい SD メモリーカードや、他の機器で使用した SD メモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。（☞P.93）

記録先について

SD メモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SD メモリーカードをセットしているときは SD メモリーカードに記録されます。

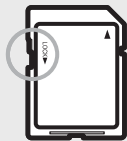
再生元について

SD メモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーから再生され、SD メモリーカードをセットしているときは SD メモリーカードから再生されます。

注意

- SD メモリーカードがセットされているときは、SD メモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SD メモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。なお、「LOCK」の状態にすると SD メモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

メモ

内蔵メモリーに記録された画像を、SD メモリーカードにコピーすることができます。（☞P.81）

電池を充電する

電池は、使用する前に充電する必要があります。

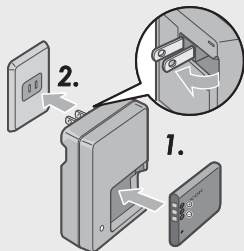
1 電池の⊕ ⊖印と充電器の⊕ ⊖印を合わせてセットする

- このとき、電池のロゴ印刷面は上になっています。

注意 --

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントに充電器を差し込む

- 充電には専用充電器（BJ-10）をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	充電器の端子汚れ、または充電器／電池の異常。充電器をコンセントから抜いて、電池を取り外してください。

- 電池の充電時間の目安は、以下のとおりです。電池の残量により充電時間は異なります。

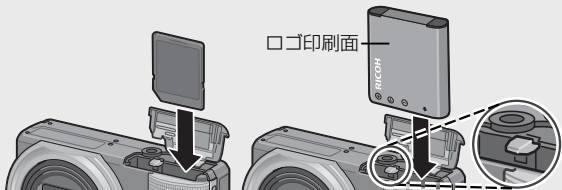
電池の充電時間	
DB-100	約 180 分（25℃）

電池と SD メモリーカードをセットする

電池を充電したら、電池と SD メモリーカードをカメラにセットします。電池や SD メモリーカードを取り出すときには、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

1 電池／カードカバーをスライドさせて開ける

2 SD メモリーカードと電池を挿入する

- SD メモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまで奥へ挿入してください。
- 電池がセットされると、図のツメでロックされます。

3 電池／カードカバーを閉じて、スライドさせる

電池を取り出すときには

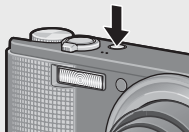
電池／カードカバーをスライドさせて開けます。電池をロックしているツメをずらすと電池が押し出されますので、つまんで取り出します。このとき電池が落下しないよう十分に注意してください。

SD メモリーカードを取り出すときには

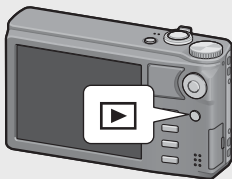
電池／カードカバーをスライドさせて開けます。SD メモリーカードを一度押し込んで指を静かに離すと SD メモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

電源をオン／オフする

電源をオン／オフするには、POWER（電源）ボタンを押します。

オンにすると起動音が鳴り、画像モニターが点灯します。

オンの状態で POWER ボタンを押すと、その日の記録枚数が表示され、電源がオフになります。日時設定をしていない場合は、記録枚数は［0］と表示されます。日時設定を変更した場合は、設定変更後の記録枚数のみ表示されます。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを長押しすると、再生モードの状態で電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。
- ▶ ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度 ▶ ボタンを押すと、撮影モードになります。

 オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押さなかった場合は、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.94）

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、年・月・日・時・分・書式を設定する

- ADJ./OK ボタンの上下で設定を変更し、左右で項目を移動します。
- DISP. ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

2 画面の表示を確認し、ADJ./OK ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを押す

- 日時が設定されます。

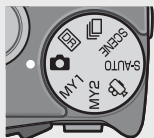
メモ --

- 電池を取り出してから約 1 週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに 2 時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(☞P.96)
- 日時を入れて撮影することができます。(☞P.71)

かんたんな撮影

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

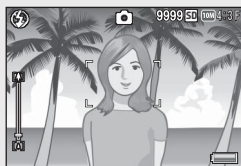
オート撮影モードで撮る（ピントを合わせて撮る）

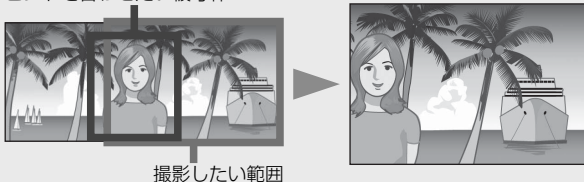
モードダイヤルを 📷 に合わせて、オート撮影モードで撮影してみましょう。

シャッターボタンを押す操作は、2 段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押し切ると撮影されます。

被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体に付ける

2 シャッターボタンに指を当てる

3 画像モニターの中央の AF 枠に被写体を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出とホワイトバランスが固定されます。
- 最大 9 点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

4 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

5 シャッターボタンをそのまま静かに押し切る

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたは SD メモリーカードに保存されます。

注意

- 指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。
- レンズユニットを手で持たないように注意してください。ズーム、ピント合わせが正常に動作しません。

ピント合わせについて

ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色で確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色
ピント合わせ前	白
ピントが合ったとき	緑
ピントが合わなかったとき	赤（点滅）

次のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。

- コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
- 横線だけで、凹凸のないもの
- 動きの速いもの
- 暗いところのもの
- 強い逆光および反射光があるもの
- 蛍光灯などのちらつきのあるもの
- 光源が点状のもの（電球、スポットライト、点光源 LED など）

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離の違う被写体にピントを固定するなどしてから撮影してください。

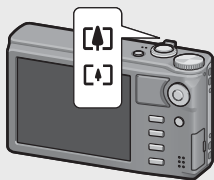
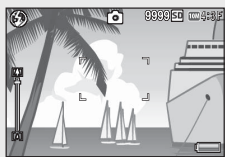
手ブレを防ぐには

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンは静かに押しましょう。
- シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画を鮮明に撮影できません（手ブレ）。
  次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。
  - フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
  - ズームを使って撮る
  - 長時間露光を設定して撮る（☞P.69）
- 画像モニターに マークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。
  - 手ブレ補正機能を使う（☞P.70）
  - フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.29）
  - ISO 感度を上げる（☞P.78）
  - セルフタイマーを使う（☞P.30）

ズームを使って撮る

ズームレバーを［♠］（望遠）側に回すと、被写体を大きく写すことができます。ズームレバーを［♠］（広角）側に回すと、広い範囲を写すことができます。ズームの状況は画像モニターのズームバーで確認できます。

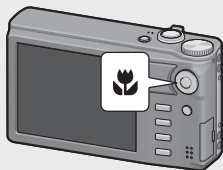
ズームバー

メモ

光学ズームの焦点距離を 8 段階に固定することができます。（☞P.93）

デジタルズームを使う

デジタルズームを使用すると、通常の拡大倍率（最大 10.7 倍）より、さらに被写体を拡大できます（静止画：最大 4.8 倍、動画［HD 1280］：最大 2.8 倍、動画［VGA 640］または［QVGA 320］：最大 4.0 倍まで）。
デジタルズームを使う場合は、ズームバー表示が [♠] 側の端までできた状態でいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを [♠] 側に回します。［画質・サイズ］を 10M 4:3F または 10M 4:3N に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます（☞P.95）。撮影モードや設定している撮影設定メニューによっては、デジタルズームは使用できません（☞P.118）。

接写で撮る（マクロ撮影）

マクロ撮影機能を使うと、カメラを被写体に接近させて撮影できます。マクロ撮影にするには、ADJ./OK ボタンを 🌷（マクロ）側に押します。ADJ./OK ボタンをもう一度 🌷 側に押すと、マクロモードが解除されます。

 メモ

- マクロ撮影時は、ズームの位置によって最短撮影距離が変わりますが、［最短撮影距離表示］を［表示］に設定すると、最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。（☞P.95）
- ［フォーカス］（☞P.67）は［スポット AF］になります。
- 撮影モードによっては、マクロ撮影はできません。（☞P.118）
- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの［ズームマクロ］を使います。（☞P.51）
- ズームを使用しているときの最短撮影距離と撮影範囲は以下のとおりです。

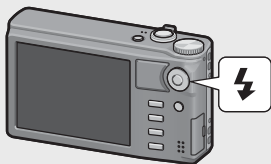
ズーム位置	焦点距離（*）	最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
広角時	31mm	約 1cm	約 28 × 21mm
望遠時	300mm	約 28cm	約 45 × 34mm（デジタルズーム未使用時）
	1440mm	約 28cm	約 9.4 × 7.0mm（デジタルズーム 4.8 倍時）

（*）35mm 判カメラ換算値です。

フラッシュを使って撮る

撮影する状況によって、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、[AUTO]に設定されています。

1 ADJ./OK ボタンを⚡(フラッシュ)側に押す

- 画像モニターにフラッシュモード一覧が表示されます。

(発光禁止アイコン)	発光禁止	フラッシュを発光しません。
(AUTOアイコン)	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
(赤目軽減アイコン)	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
(強制発光アイコン)	強制発光	フラッシュを必ず発光します。
(SLOWアイコン)	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。

2 ADJ./OK ボタンを上下に押して、フラッシュモードを選ぶ

- 画像モニター左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、画像モニター左上のフラッシュモードのマークが点滅します。充電が完了するとマークが点灯し、撮影が可能になります。

注意 --

- フラッシュ充電中(約 5 秒間)は撮影できません。
- フラッシュを使用する設定になっている場合は、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

メモ --

- ADJ./OK ボタンを ⚡（フラッシュ）側に押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、マルチターゲット AF、ダイナミックレンジダブルショット、ブラケット撮影では、発光禁止になります。
- フラッシュの光量は、調整することができます。（☞P.69）
- フラッシュ発光時は、AE の精度を補助するため、予備発光します。
- 撮影モードや設定している撮影設定メニューによっては、フラッシュを使用できません。（☞P.118）

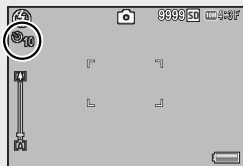
セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10 秒、2 秒、［カスタムセルフ］（☞P.69）から選択できます。

1 撮影できる状態で、⏲（セルフタイマー）ボタンを押す

- 画像モニターにセルフタイマーモード一覧が表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを上下に押して、モードを選ぶ

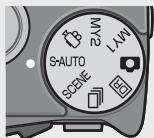
- 画像モニター左上にセルフタイマーのマークと秒数が表示されます。

3 シャッターボタンを押す

- 10 秒の場合は、セルフタイマーランプが 8 秒間点灯し、最後に 2 秒間点滅して撮影されます。
- ［カスタムセルフ］の場合、セルフタイマーランプが撮影の直前に毎回 2 秒間点滅し、設定した撮影間隔で撮影されます。フォーカスの位置は、1 回目の撮影で固定されます。
- ［カスタムセルフ］の場合、撮影を途中で中止したいときは MENU ボタンを押してください。

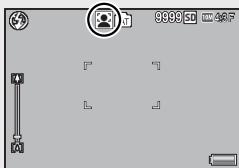
メモ --

- 撮影が完了した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、⏲ ボタンを押して、［セルフ オフ］に切り替えます。
- 2 秒の場合、セルフタイマーランプは点灯、点滅しません。
- セルフタイマーを設定すると、［インターバル撮影］の設定は無効になります。

シーンオートモードで撮る

モードダイヤルを S-AUTO に合わせると、カメラが自動的に最適なシーンモード（☞P.50）に切り替わります。

選択されるシーンモードは以下のとおりです。

シーンモード	参照	シーンモード	参照
ポートレート	P.50	夜景	P.50
スポーツ	P.50	遠景	P.51
夜景ポートレート	P.50	マクロモード	P.28

画面には認識されたシーンモードのアイコンが表示されます。マクロモードが認識された場合、画像モニターの左上にアイコンが表示されます。

メモ --

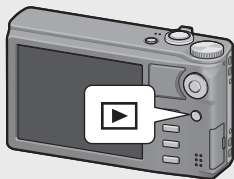
- シーンオートモード時に表示される、撮影設定メニューの項目は P.118 を参照してください。
- シーンが認識されない場合、［フォーカス］はマルチ AF、露出はマルチ AE、［ホワイトバランス］はマルチパターン AUTO で撮影されます。

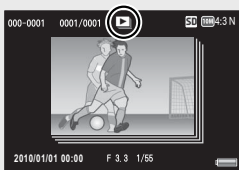
再生する

静止画を見る

再生モードにするには、▶（再生）ボタンを押します。電源がオフの状態で ▶ ボタンを約 1 秒以上押し続けると、再生モードの状態で起動します。

ADJ./OK ボタンを左右に押すと、1 ファイル前／後ろを表示できます。上下に押すと、10 ファイル前／後ろを表示します。

再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押します。

再生モードで再生される画像

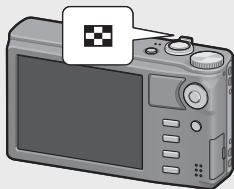
マークが表示されているファイルの再生方法は、P.62 を参照してください。

一覧表示する

20 分割

ズームレバーを ▦（サムネイル表示）側に回すと、画面が 20 分割されてファイルが一覧表示されます。

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面とページ送り画面を切り替えられます。ページ送り画面では、ADJ./OK ボタンを上下左右に押すとページを切り替えられます。

1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./OK ボタンを押すか、ズームレバーを Q（拡大表示）側に 1 回まわします。

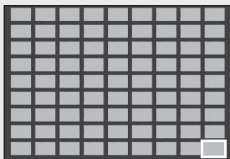
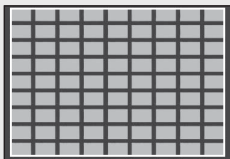
はじめてお使いのときは必ずお読みください

81 分割

20 分割表示時に再度ズームレバーを ▦ 側に回すと、画面が 81 分割されてファイルが一覧表示されます。

画像選択画面

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面とページ送り画面を切り替えられます。ページ送り画面では、ADJ./OK ボタンを上下左右に押すとページを切り替えられます。

ページ送り画面

1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./OK ボタンを押すか、ズームレバーを Q（拡大表示）側に 2 回まわします。

日付表示

81 分割表示時に再度ズームレバーを ▦ 側に回すと、日付表示になり、撮影日ごとに画像が表示されます。

画像選択画面

DISP. ボタンを押すと、画像選択画面と日付送り画面を切り替えられます。日付送り画面では、ADJ./OK ボタンを左右に押すと撮影日、上下に押すとページを切り替えられます。

日付送り画面

1 枚表示に戻すには、画像選択画面でファイルを選んでから ADJ./OK ボタンを押すか、ズームレバーを Q（拡大表示）側に 3 回まわします。

拡大表示する

ズームレバーを Q（拡大表示）側に回すと、表示している静止画を拡大表示することができます。画像サイズにより、拡大できる倍率は異なります。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
VGA 4:3F	3.4 倍
1M 4:3F	6.7 倍
上記以外の画像サイズ	16 倍

拡大表示中に DISP. ボタンを押すと、以下のように画面を切り替えることができます。

DISP. ボタン

この画面で ADJ./OK ボタンを上下左右に押すと、表示個所を移動します。

この画面で ADJ./OK ボタンを上下左右に押すと、表示個所を移動します。

DISP. ボタン長押し

DISP. ボタン長押し

この画面で ADJ./OK ボタンを左右に押すと、拡大表示した状態で、前の画像／次の画像を表示します。MP ファイルまたは動画を表示すると、等倍に戻ります。

元の大きさに戻したい場合は、ズームレバーを ▣（サムネイル表示）側に回します。

メモ --

- 動画を拡大表示することはできません。
- MP ファイルの拡大表示方法は、P.62 ～ 63 を参照してください。
- ［トリミング］（☞P.83）した画像は、上記の最大倍率まで拡大できません。

削除する

ファイルをSDメモリーカードまたは内蔵メモリーから削除できます。

メモ

誤って必要なファイルを削除してしまった場合は、[ファイル復元]を使うと、削除したファイルを元に戻すことができます。(☞P.81)

1 ▶(再生)ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

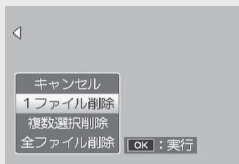
2 ADJ./OKボタンを上下左右に押して、削除したいファイルを表示する

- 複数ファイルを削除したい場合は、ズームレバーを▦(サムネイル表示)側に回し、一覧表示にしてから手順3に進んでも構いません。

3 🗑(削除)ボタンを押す

1ファイル/全ファイルを削除する場合

4 ADJ./OKボタンを上下に押して、[1ファイル削除]または[全ファイル削除]を選ぶ

- ADJ./OKボタンを左右に押すと、削除するファイルを変更できます。

5 ADJ./OKボタンを押す

- [全ファイル削除]を選んだ場合、ADJ./OKボタンを左右に押して[はい]を選び、ADJ./OKボタンを押します。

複数ファイルを個別に指定する場合

4 ADJ./OK ボタンを上下に押して、[複数選択削除] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

- P.35 の手順 2 で一覧表示にしていた場合は、手順 4 の操作は不要です。

5 ADJ./OK ボタンを上下に押して、[1 枚ずつ指定] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

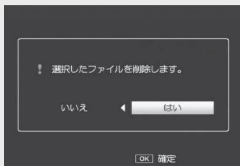
6 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、削除したいファイルを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- MENU ボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。P.37 の手順 6 以降を参照してください。

7 手順 6 を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して ADJ./OK ボタンを再度押すと解除できます。

8 🗑（削除）ボタンを押す

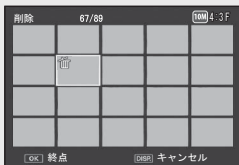
9 ADJ./OK ボタンを左右に押して、[はい] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

複数ファイルの範囲を指定する場合

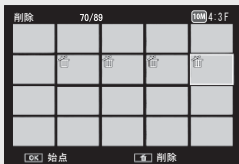
4 ADJ./OK ボタンを上下に押して、[複数選択削除] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

- P.35 の手順 2 で一覧表示にしていた場合は、手順 4 の操作は不要です。

5 ADJ./OK ボタンを上下に押して、[範囲を指定] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

6 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP. ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。
- MENU ボタンを押すと、1 ファイルずつ指定する画面に切り替わります。P.36 の手順 6 以降を参照してください。

7 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、ADJ./OK ボタンを押す

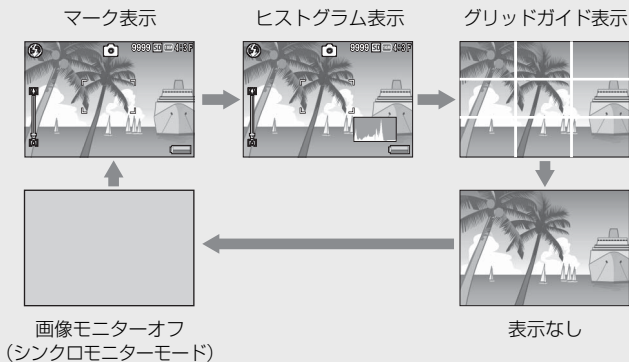
- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

8 手順 6、7 を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

9 🗑（削除）ボタンを押す

10 ADJ./OK ボタンを左右に押して、[はい] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

DISP. ボタンで画面表示を切り替える

DISP. ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

撮影モード時

 グリッドガイド表示

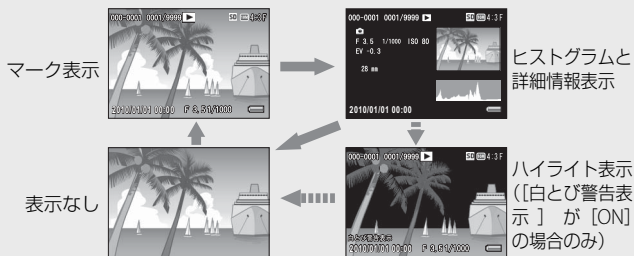
- 画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。
- グリッドの種類はセットアップメニューの［グリッドガイド表示設定］で選択できます。（☞P.95）

 シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、画像モニターをオフにする機能です。節電に効果があります。シャッターボタンを半押しすると、画像モニターがオンになり、押し切った後に確認画面が表示されて、画像モニターがオフになります。（セットアップメニューの［画像モニター節電］とは異なります。）

メモ

- セットアップメニューで［撮影情報表示フレーム］を［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示のときに、撮影情報フレームを表示することができます。(☞P.95)
- 動画モード時は、ヒストグラム表示はできません。また、グリッドガイド表示または表示なしの場合でも、動画モードで録画中は画面に［● REC］が点滅し、記録時間と残り記録時間が表示されます。
- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示+音］に設定している場合は(☞P.40)、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます。(☞P.41)
- 画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ADJ./OK ボタン、MENU ボタン、DISP. ボタン、▶(再生)ボタンを押した場合
  - ズームレバーを回した場合
  - マニュアルフォーカス中(☞P.73)に ADJ./OK ボタンを上下に押した場合

再生モード時

ハイライト表示

- セットアップメニューで［白とび警告表示］を［ON］にした場合(☞P.95)、ヒストグラムと詳細情報表示時に DISP. ボタンを押すとハイライト表示に切り替わります。
- ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。構図を変える、露出を－側に補正する(☞P.76)などして、撮りなおすことをお勧めします。
- ハイライト表示は、あくまでも目安です。

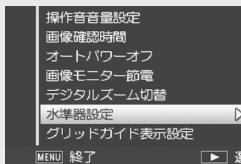
電子水準器について

セットアップメニューまたはDISP.ボタンの長押しで［水準器設定］をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認することができます。水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。

風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図などで特に有効です。

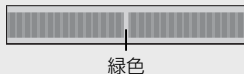
設定	内容
OFF	水平インジケーターは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ ※購入時の設定	水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示＋音	水平インジケーターが表示され、画像が水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケーターは表示されません。画像が水平状態のときに水準器音が鳴ります。

1 セットアップメニュー（☞P.92）で［水準器設定］を選び、右に押す

- 撮影できる状態でDISP.ボタンを長押しした場合でも、設定画面を表示できます。

2 ADJ./OKボタンを上下に押して設定を選び、ADJ./OKボタンを押す

水平インジケーターの表示

水平の場合：

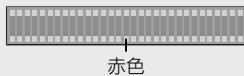
水平インジケーターが緑色になり、目盛りが真中を指します。

左右に傾いている場合：

水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

左右に傾けすぎている場合：

カメラの傾きと反対側の半分が赤色になります。目盛りは表示されません。

カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合：

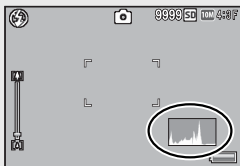
水平インジケーターの上下が赤くなります。目盛りは表示されません。

カメラを縦にしている場合：

カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます（表示される場所が変わります）。

注意 ---

- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフのときは（☞P.38）、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- ［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定していても、［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合（☞P.94）は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、画像モニターの右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。

ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムの山が右側だけ盛り上がっている場合は、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

グラフの山が左側だけ盛り上がっている場合は、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ --

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを調整しながら画像の明度、コントラストを補正することができます。（☞P.86）
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.76 を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

本文中の「ADJ./OK ボタンを上下左右に押す」という説明は、ADJ./OK ボタンを ▲（上）▼（下）✿（左）ϟ（右）の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OK ボタンを押す」という説明は、ADJ./OK ボタンの真中を押し下げることを意味します。

1 ADJ. ボタンの機能

ADJ./OK ボタンには、以下の機能があります。それぞれの操作方法は、各参照先をご覧ください。

① 撮影設定メニューのうち、4 つの機能を登録する
② AE/AF ターゲットを移動する

撮影設定メニューの登録と選択方法

ADJ./OK ボタンには、撮影設定メニューのうち 4 つの機能を登録することができます。5 つ目の機能は、AE/AF ターゲット移動（☞P.45）に固定されており、変更することはできません。

ADJ./OK ボタンを使うと、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。

1 ADJ./OK ボタンに登録したい機能を、セットアップメニューの［ADJ. ボタン設定 1/2/3/4］で設定する

- 購入時には 4 つの機能が登録されていますが、機能を変更することができます。

2 撮影モードで ADJ./OK ボタンを押す

- ADJ. モード画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを左右に押して、設定したい項目を選択する

4 ADJ./OK ボタンを上下に押して設定を選択し、ADJ./OK ボタンを押して確定する

メモ --

- ADJ./OK ボタンに登録できる機能は、P.120 を参照してください。
- ADJ. モード中に MENU ボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。

AE ／ AF ターゲット移動

AE（自動露出）と AF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。

設定	内容
AE/AF	AE と AF はそれぞれスポット AE、スポット AF となり、ターゲットを同時に移動できます。（スポット AE とスポット AF のターゲットは同じ位置になります。）
AF	AF がスポット AF となり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの［測光］で選択した設定になります。(☞P.68)
AE	AE がスポット AE となり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの［フォーカス］で選択した設定になります。（☞P.67）

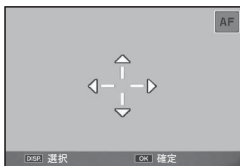
1 モードダイヤルを 📷 ／ DR ／ ▣ に合わせて ADJ./OK ボタンを押す

2 ADJ./OK ボタンを左右に押して、✥ を選択する

3 ADJ./OK ボタンを上下に押して設定を選び、ADJ./OK ボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、露出やピントを合わせたい被写体の位置にターゲットを移動する

- DISP. ボタンを押すと、手順 2 の画面に戻ります。

5 ADJ./OK ボタンを押す

6 シャッターボタンを半押ししてそのまま静かに押し切る

メモ ---

- シーンモードと動画モードでは、✥ がマクロターゲット ✿ に変わり、マクロターゲットを移動できます。
- Fn ボタンでマクロターゲット移動機能を実行し（☞P.47）、その後解除していない場合、✥ は表示されません。
- この機能は、［フォーカス］（☞P.67）を［マルチ AF］または［スポット AF］に設定している場合に使用できます。

2 Fn（ファンクション）ボタンの使い方

セットアップメニューの［Fn ボタン設定］で機能を登録すると（☞P.47）、Fn ボタンを押すだけでいろいろな機能を切り替えることができます。

Fn ボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。それぞれの操作方法は各参照先をご覧ください。

設定	内容	参照先
マクロターゲット	カメラを動かさずに AF ターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.47
AE ロック	露出を固定する	P.48
AF/ 顔優先 AF	オートフォーカス（＊1）と顔優先 AF を切り替える	P.49
AF/ コンティニュアス AF	オートフォーカス（＊2）とコンティニュアス AF を切り替える	P.49
AF/ マルチターゲット AF	オートフォーカス（＊3）とマルチターゲット AF を切り替える	P.49
AF/MF	オートフォーカス（＊3）とマニュアルフォーカスを切り替える	P.49
AF/ スナップ	オートフォーカス（＊3）とスナップを切り替える	P.49
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT	各機能のオン／オフを切り替える	—

（＊1）［マルチ AF］、［スポット AF］または［コンティニュアス AF］
（＊2）［マルチ AF］、［スポット AF］または［顔優先 AF］
（＊3）［マルチ AF］、［スポット AF］、［顔優先 AF］または［コンティニュアス AF］

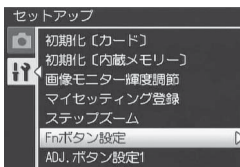
メモ --

- 撮影モード別の設定可能項目は、P.120 を参照してください。
- シーンモードで［ミニチュアライズ］（☞P.53）を選択している場合、［Fn ボタン設定］で登録した機能は使用できません。
- 画像を再生しているときに Fn ボタンを押すと、［画像クリップ〔設定〕］で登録した画像が表示されます。操作方法は、P.82 を参照してください。
- 再生設定メニューの［トリミング］、［レベル補正］（［MANUAL］選択時）、［ホワイトバランス補正］を選択して Fn ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。（☞P.83、86、87）

Fn ボタンの設定方法

Fn ボタンに機能を登録するには、次のように操作します。

1 セットアップメニュー（☞P.92）で［Fn ボタン設定］を選び、ADJ./OK ボタンを右に押す

2 設定を選び、ADJ./OK ボタンを押す

マクロターゲット

AF ターゲットを移動してマクロ撮影ができます。

1 セットアップメニューで［Fn ボタン設定］を［マクロターゲット］に設定する

2 撮影できる状態で、Fn ボタンを押す

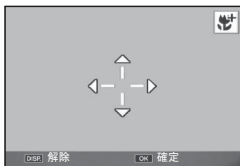
- マクロターゲット移動画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを上下左右に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

4 ADJ./OK ボタンを押す

- DISP. ボタンを押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

5 シャッターボタンを半押ししてそのまま静かに押し切る

- 十字の位置にピント合わせが行われます。
- ADJ./OK ボタンを 🌷（マクロ）側に押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

メモ

ADJ./OK ボタンで AE/AF ターゲット移動機能を実行し（☞P.45）、その後解除していない場合は、Fn ボタンを押しても本機能は使用できません。

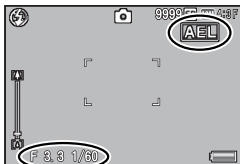
AE ロック

Fn ボタンに［AE ロック］を登録する（☞P.47）と、撮影時に Fn ボタンを押して、露出の固定（AE ロック）、解除を切り替えることができます。

1 セットアップメニューで［Fn ボタン設定］を［AE ロック］に設定する

- 操作方法は P.47 を参照してください。

2 撮影できる状態で画像モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fn ボタンを押す

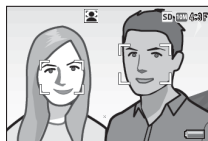
- 露出が固定され、画面に AEL マーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
- もう一度 Fn ボタンを押すと、AE ロックが解除されます。

メモ

- 動画モードでは AE ロック機能は使用できません。
- ［長時間露光］を［OFF］以外に設定している場合、AE ロック機能は使用できません。

フォーカスの設定を切り替える

Fn ボタンに以下の機能を登録する（☞P.47）と、撮影時に Fn ボタンを押してフォーカス設定を切り替えることができます。

設定	内容
AF/ 顔優先 AF	［フォーカス］（☞P.67）をマルチ AF またはスポット AF、コンティニュアス AF に設定している場合、AF モードを顔優先 AF に切り替えられます。フォーカス方法が顔優先 AF の場合、最後に設定した AF モードに切り替わります。
AF/ コンティニュアス AF	［フォーカス］をマルチ AF、スポット AF または顔優先 AF に設定している場合、AF モードをコンティニュアス AF に切り替えられます。フォーカス方法がコンティニュアス AF の場合、最後に設定した AF モードに切り替わります。
AF/ マルチターゲット AF	［フォーカス］をマルチ AF、スポット AF、顔優先 AF またはコンティニュアス AF に設定している場合、AF モードをマルチターゲット AF に切り替えられます。フォーカス方法がマルチターゲット AF の場合、最後に設定した AF モードに切り替わります。
AF/MF	［フォーカス］をマルチ AF、スポット AF、顔優先 AF またはコンティニュアス AF に設定している場合、AF モードから MF に切り替えられます。フォーカス方法が MF の場合、最後に設定した AF モードに切り替わります。
AF/ スナップ	［フォーカス］をマルチ AF、スポット AF、顔優先 AF またはコンティニュアス AF に設定している場合、AF モードからスナップに切り替えられます。フォーカス方法がスナップの場合、最後に設定した AF モードに切り替わります。

注意 --

［フォーカス］の設定が、上記の表に記載された設定以外の場合、Fn ボタンを押しても切り替えはできません。

シーンモード（SCENE）

シーンモードを使うと、13 種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類

 ポートレート	人物を撮影するときに使います。 被写体の顔を最大 8 枠まで自動的に認識し、ピント、露出、ホワイトバランスを調整します。 以下のような場合は顔認識できないことがあります。 • 横顔、傾けている顔、動いている顔の場合 • カメラを傾けたり、逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合 • 顔の一部が隠れてたり、画像モニターの端にある場合 • 周囲が暗く、顔がよく見えない場合 • 被写体から遠すぎる場合（グリッドガイド表示 ☞P.38 にしたときに、画像モニターに映る顔の高さが、グリッドガイド 1 マスの高さ以上になるようにしてください）
  スポーツ	動きのあるものを撮影するときに使います。
 ペット	猫などのペットを撮影するときに使います。 フラッシュ（☞P.29）、AF 補助光（☞P.94）、操作音（☞P.94）は設定にかかわらず、すべてオフになります。
 夜景ポートレート	夜景を背景にして人物を撮影するときに使います。 フラッシュは自動的に発光します。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。
 夜景	夜景を撮影するときに使います。夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。 • フラッシュ設定が［AUTO］のとき • 周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき • 近い距離に人物などの被写体があるとき

ミニチュアライズ	実際の風景を、ミニチュアで再現して撮影したような印象の画像にすることができます。 詳しい操作手順は P.53 で説明しています。
遠景	緑や青空の多い風景を撮影するときに使います。
高感度	薄暗い場所で撮影するときに使います。画像モニターも見やすくなります。
ハイコントラスト白黒	通常の白黒撮影（☞P.68）よりもコントラストを強調して撮影するときに使います。フィルムカメラで超高感度フィルムを使用して撮影したり、増感現像したような、ざらついた印象の画像を撮影できます。
マナー	フラッシュや操作音をオフにしたい場所で撮影するときに使います。 フラッシュ（☞P.29）、AF 補助光（☞P.94）、操作音（☞P.94）は設定にかかわらず、すべてオフになります。
ズームマクロ	ズーム位置を自動的に最適化し、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。光学ズームは使用できません。常時マクロモードに固定されます。
文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 画像サイズは、［10M 4:3］、［3M 4:3］から選択できます。（☞P.67）
斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。詳しい操作手順は P.55 で説明しています。 Report　Report 斜め補正モードでは、［画質・サイズ］は、［1M 4:3F］、［VGA 4:3F］から選択できます。（☞P.67）

3

撮影モードの種類

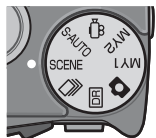
注意 --

- ［ペット］または［マナー］に設定した場合は、以下の点にご注意ください。
  - 警告音は鳴りません。
  - ADJ./OK ボタンを⚡（フラッシュ）側に押しても、フラッシュモードは変更されません。（☞P.29）
  - セルフタイマーを使用しても、セルフタイマーランプは点滅せず、音も鳴りません。（☞P.30）
- ［ズームマクロ］を使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

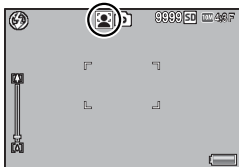
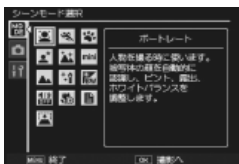
焦点距離（*）	最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
70mm	約 1cm	約 19 × 14mm（デジタルズーム未使用時）
335mm	約 1cm	約 4.0 × 3.0mm（デジタルズーム 4.8 倍時）

（*）35mm 判カメラ換算値です。

シーンモードの設定方法

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 シーンモードを変更したい場合は、MENU ボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 シーンモードを選ぶ

4 ADJ./OK ボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

シーンモードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には ---

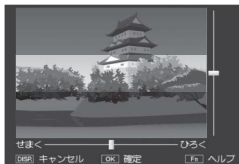
撮影モードで MENU ボタンを押し、ADJ./OK ボタンを左に押して［MODE］タブを選択してください。

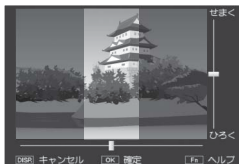
ミニチュアライズを使うには

ミニチュアライズを使用すると、ミニチュアを接写したような印象の画像を撮影できます。高い場所から斜め下の方向に見下ろした風景を撮影すると効果的です。

1 シーンモードで［ミニチュアライズ］を選んで ADJ./OK ボタンを押す

2 Fn ボタンを押す

- ミニチュアライズ設定画面が表示されます。
- ぼかさない部分 (注目エリア) 以外が半透明のグレーで表示されます。
- ミニチュアライズ設定をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。

メモ --

🗑（削除）ボタンを押すと、注目エリアが縦に表示されます。カメラを縦にして撮影したい場合に使用します。

3 ADJ./OK ボタンを上下に押して、注目エリアの位置を移動する

- この画面で Fn ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

4 ADJ./OK ボタンを左右に押して、注目エリアの幅を設定する

5 ADJ./OK ボタンを押す

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しし、シャッターボタンを押し切る

注意 --

撮影直後に表示される確認画像と実際の画像では、ぼけ具合が多少異なります。

斜め補正モードを使うには

1 シーンモードで［斜め補正］を選んで ADJ./OK ボタンを押す

2 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大 5 つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OK ボタンを右に押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OK ボタンを上に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

3 ADJ./OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

メモ --

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。（☞P.88）

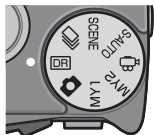
注意 --

［斜め補正］に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体ができるだけ大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンぼけの画像
  - 被写体の 4 辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2 枚の画像が記録されます。記録可能枚数が 2 枚未満の場合には、撮影できません。
- ［日付入れ撮影］をオンに設定していると、補正エリアを正しく検出できない場合があります。

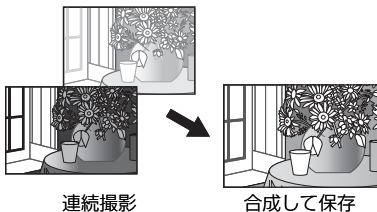
ダイナミックレンジダブルショットモード（DR）

デジタルカメラの「ダイナミックレンジ」とは、カメラが処理できる輝度の範囲を指します。

モードダイヤルを DR に合わせて撮影すると、明るい部分から暗い部分までなめらかに再現し、人の目で見た印象と近い画像が記録できます。

メモ --

ダイナミックレンジダブルショットでは、露出を変化させて 2 枚の静止画を連続撮影し、それぞれの適正露出部分を合成します。他のモード時と比べて撮影時間が長くなるので、手ブレに注意してください。手ブレ マークは常に表示されます。

連続撮影

合成して保存

注意 --

- 撮影場所が明るすぎたり暗すぎたりする場合、ダイナミックレンジダブルショットの効果が出ない場合があります。
- ダイナミックレンジダブルショットを使用する場合、測光モード（☞P.68）を［マルチ］に設定することをお勧めします。
- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録されたり、色や明るさが正しく記録できない場合があります。

ダイナミックレンジ拡大効果

撮影設定メニューの［ダイナミックレンジ拡大効果］では、ダイナミックレンジの拡大効果を、［AUTO］、［微弱］、［弱］、［中］、［強］の 5 種類から選択できます。拡大効果を強くするほど、カメラが処理できる輝度の範囲が広がります。

設定を変更するには、モードダイヤルを [DR] に合わせ、撮影設定メニューの［ダイナミックレンジ拡大効果］から設定を選んでください。

［AUTO］以外を選んで ADJ./OK ボタンを右に押すと、［ダイナミックレンジ拡大効果 詳細設定］画面が表示されます。ダイナミックレンジを適用する際に、どの領域の輝度を優先するかを［ハイライト］、［シャドー］、［OFF］から選択できます。

通常撮影画像の付加

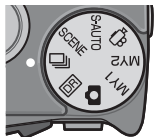
撮影設定メニューの［＋通常撮影］を［ON］に設定すると、ダイナミックレンジを拡大した画像に加え、通常撮影での画像を付加し、合計 2 枚の画像を記録します。撮影後に表示される確認画像で、右が通常画像、左がダイナミックレンジ拡大画像です。

設定を変更するには、モードダイヤルを [DR] に合わせ、撮影設定メニューの［＋通常撮影］から設定を選んでください。

メモ --

撮影後、両画像のヒストグラムが表示されます。［画像確認時間］を［HOLD］に設定すると（☞P.94）、確認画面を保持してヒストグラムを確認できるので、画像を比較しやすくなります。

連写モード（◻）

モードダイヤルを ◻ に合わせると、いろいろな連続撮影ができます。連写モードは、MENU ボタンを押して表示される連写モード選択画面で変更できます。

連写モードの種類

連写	通常の連写撮影です。シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。通常の撮影時と同じように、1 枚ずつ記録します。連続撮影可能枚数は、画像サイズ（☞P.67）により異なります。
M 連写プラス (10M)	シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった 15 枚（最短約 3 秒間）の静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。（☞P.59）
M 連写プラス (2M)	シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった 26 枚（約 0.9 秒間）の静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。（☞P.60）
超高速連写 (Low)	シャッターボタンを押し切った瞬間から、約 2 秒間で 120 枚（60 コマ／秒）を連続撮影します。連続撮影した静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。（☞P.60）
超高速連写 (Hi)	シャッターボタンを押し切った瞬間から、約 1 秒間で 120 枚（120 コマ／秒）を連続撮影します。連続撮影した静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。（☞P.60）

注意 --

内蔵メモリー使用時は、シャッターボタンから指を離してから記録完了までに時間がかかる場合があります。

連写モードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には ----------------------------

撮影モードで MENU ボタンを押し、ADJ./OK ボタンを左に押して［MODE］タブを選択してください。

メモ

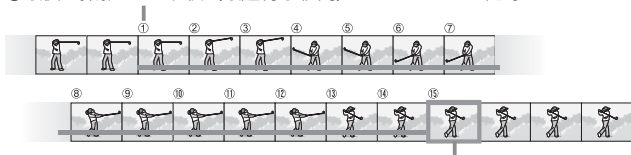
- フラッシュは発光禁止になります。
- 手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを に合わせると、 の表示が消えます。
- フォーカス、露出値、ホワイトバランスが固定されます。
- 通常撮影時に比べて ISO 感度が高めに設定されます。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。
- ［カード連続 NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.96）、連写撮影中にファイル番号の下 4 桁が「9999」を超えると、SD メモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。

MP ファイル

MP ファイルとは、複数の静止画を 1 つにしたファイル形式です。

M 連写プラス (10M)

シャッターボタンを押している間、連続撮影を行います。シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった 15 枚（最短約 3 秒間）の静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。

②最後に撮影した 15 枚（最短約 3 秒間）をさかのぼって記録

①ここでシャッターボタンから指を離すと…

注意

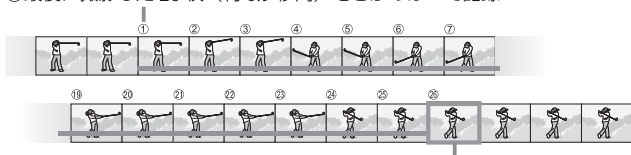
被写体の明るさにより、撮影時間が長くなることがあります。

メモ

- 画像サイズは、10M 4:3N に固定されます。
- 撮影時の日付情報と水準器情報が、それぞれのコマ（静止画像）に記録されます。

M 連写プラス (2M)

シャッターボタンを押している間、連続撮影を行います。シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった 26 枚（約 0.9 秒間）の静止画を 1 組にして、1 つの MP ファイルとして記録します。

注意 --

- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 日付入れ撮影は無効になります。

メモ --

- 画像サイズは、2M 4:3N に固定されます。
- シャッターボタンを離した時点の日付情報と水準器情報が、すべてのコマ（静止画像）に記録されます。

超高速連写 (Low) ／超高速連写 (Hi)

約 1 秒間（超高速連写 (Hi)）または 2 秒間（超高速連写 (Low)）で 120 枚を連続撮影します。

注意 --

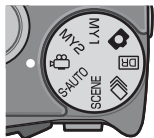
動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。

メモ --

- 画像サイズは、VGA 4:3N に固定されます。
- シャッターボタンを離した時点の日付情報と水準器情報が、すべてのコマ（静止画像）に記録されます。

動画モード（🎥）

動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。動画サイズ（☞P.67）も選択できます。撮影した動画は、1 つの AVI ファイルとして記録されます。

シャッターボタンを押すと画面に［● REC］が点滅し、動画撮影を開始します。

録画中は、記録時間と残り記録時間が表示されます。再度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。

注意 ---

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1 回の撮影で記録可能な動画は、最大 29 分までです。ただし、実際の撮影可能時間はご使用のカードの容量により異なります（☞P.125）。また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。

メモ ---

- 一秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）は 30 コマ / 秒です。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。長時間撮影される場合は、充分に充電された電池またはACアダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、充分に空き容量のある高速 SD メモリーカードのご使用をお勧めします。

動画の再生

動画を再生するには、次のように操作します。

1 再生モードで再生したい動画を選ぶ

2 ADJ./OK ボタンを押す

- 再生が始まります。画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中にズームレバーを [T] 側に回す
巻き戻し	再生中にズームレバーを [W] 側に回す
一時停止／再生	ADJ./OK ボタンを押す
スロー再生	一時停止中にズームレバーを [T] 側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを [W] 側に回し続ける
次のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを [T] 側に回す
前のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを [W] 側に回す
音量を調節する	再生中に ADJ./OK ボタンを上下に押す

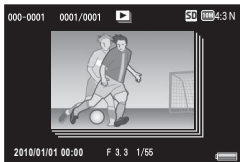
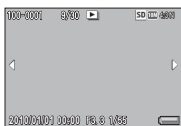
MP ファイルの再生

M 連写プラス／超高速連写／マルチターゲット AF では、1 回に撮影した静止画を、1 つの MP ファイルとして記録します。MP ファイルは、以下の方法で再生することができます。

メモ --

- 通常連写で撮影した画像は、通常の静止画と同じ再生方法です。
- マルチターゲット AF で撮影した場合は、ピント位置が表示されます。

1 再生モードで再生したい MP ファイルを表示する

- MP ファイルは、[MP] マークが表示されます。

2 以下のように表示を切り替える

手順 1 の表示状態

- DISP. ボタンを押すと、「通常表示」と「表示なし」が切り替わります。
- ズームレバーを Q（拡大表示）側に回しても、拡大表示することはできません。一覧表示になります。
- 上記以外の操作は、通常の静止画再生時と同じです。

一覧表示

- MP ファイルのコマを一覧表示します。
- ADJ./OK ボタンを上下左右に押すと、各コマを選択できます。
- DISP. ボタンは無効です。

Q
ADJ./OK

1 コマ表示

- 一覧表示画面で選択したコマを、1 コマ表示します。
- ズームレバーを Q（拡大表示）側に回すと、拡大表示することができます。

スライドショー

- 表示していたコマを起点として、撮影した順に連写画像を自動的に表示します。

- スライドショー中の操作は、以下のとおりです。

一時停止／再生	ADJ./OK ボタンを押す
早送り	再生中にズームレバーを [♠] 側に回し続ける
巻き戻し	再生中にズームレバーを [♤] 側に回し続ける
スロー再生	一時停止中にズームレバーを [♠] 側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを [♤] 側に回し続ける
次のコマの表示	一時停止中にズームレバーを [♠] 側に回す
前のコマの表示	一時停止中にズームレバーを [♤] 側に回す
先頭コマの表示	ADJ./OK ボタンを左に押す
最終コマの表示	ADJ./OK ボタンを右に押す

3 MP ファイル以外を再生したい場合は、手順 1 の画面に戻り、ADJ./OK ボタンを上下左右に押す

注意 --

- MP ファイルでは、[DPOF]、[トリミング]、[画像サイズ変更]、[斜め補正](再生モード)、[レベル補正]、[ホワイトバランス補正]の機能は使用できません。
- MP ファイル内の各コマに[画像クリップ〔設定〕]、[プロテクト]を設定することはできません。一覧表示または 1 コマ表示で[画像クリップ〔設定〕]、[プロテクト]を設定しても、各コマではなく MP ファイルに設定されます。
- MP ファイル内の 1 コマのみを削除することはできません。

MP ファイル--

MP ファイルとは、複数の静止画を 1 つにしたファイル形式です。

MP ファイルの書き出し

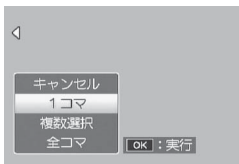
MP ファイルから、特定のコマを抜き出し、個別の静止画として保存することができます。

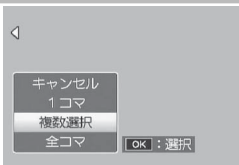
メモ --

- MP ファイルは、▣ マークが表示されます。
- 撮影時の画像サイズで保存されます。
- 書き出し前の画像はそのまま残ります。
- 書き出し後の画像に、マルチターゲット AF で撮影したときのピント位置は表示されません。

MP ファイルを書き出すには、再生モードで書き出したい MP ファイルを表示してから MENU ボタンを押して再生設定メニューを表示し、[静止画の書き出し]を選択します。

[1 コマ]を選ぶと、ADJ./OK ボタンを左右に押して選択したコマを書き出せます。

[全コマ]を選ぶと、選択した MP ファイルの全コマを書き出せます。

複数コマを指定する場合

［複数選択］を選ぶと、書き出したい MP ファイルを個別に指定したり、選択するコマの範囲を指定できます。

個別に指定する場合：

1 ［1 枚ずつ指定］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

2 コマを選択し、ADJ./OK ボタンを押す

- MENU ボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。
- 間違えて選択したときには、コマを選択して ADJ./OK ボタンを再度押すと解除できます。
- 書き出したいコマをすべて選びます。

3 Fn ボタンを押し、［はい］を選んで ADJ./OK ボタンを押す

範囲を指定する場合：

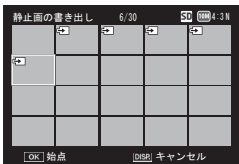
1 ［範囲を指定］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

2 指定したい範囲の始点になるコマを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- MENU ボタンを押すと､1 ファイルずつ指定する画面に切り替わります。
- 始点になるコマを間違えて選択したときは、ADJ./OK ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。

3 指定したい範囲の終点になるコマを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- 手順 2、3 を繰り返して、範囲をすべて指定します。

4 Fn ボタンを押し、［はい］を選んで ADJ./OK ボタンを押す

メモ --

一覧表示にしていた場合に［静止画の書き出し］を選択すると、［1 枚ずつ指定］または［範囲を指定］を直接選べます。

撮影モードで MENU ボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、撮影に関する設定を変更できます。

メニューの操作方法

1 撮影モードで MENU ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードまたは連写モードの場合は、ADJ./OK ボタンを左に押し、［MODE］タブを選択します。その後下に 1 回押すと、撮影設定メニューが表示されます。

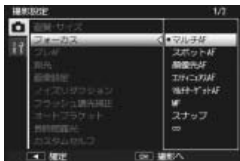
表示している画面の範囲を示しています。

2 ADJ./OK ボタンを上下に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面で DISP. ボタンを押すと、撮影設定メニュータブにカーソルが移動します。
- 一番下の項目で ADJ./OK ボタンを下に押すと、次の設定画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを右に押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを上下に押して、選択肢を選ぶ

5 ADJ./OK ボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消えて撮影できる状態になります。
- ADJ./OK ボタンを左に押すと、設定が確定して手順 2 の画面に戻ります。

撮影設定メニュー一覧

ダイナミックレンジ拡大効果 ☞P.57

ダイナミックレンジの拡大効果を選択できます。

＋通常撮影 ☞P.57

ダイナミックレンジ拡大画像に加え、通常撮影した画像を付加します。

画質・サイズ ☞P.125

静止画の画質モード、画像サイズを設定します。

動画サイズ ☞P.125

動画の記録サイズを設定します。

文字濃度

シーンモードの［文字］の濃淡を設定します。

サイズ ☞P.125

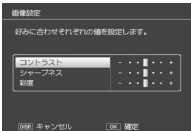
シーンモードの［文字］の画像サイズを設定します。

フォーカス ☞P.72

ピント合わせ（フォーカス）の方式を設定します。

アイコン	項目
—	マルチ AF 9 箇所の AF エリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。ピンぼけの少ない撮影ができます。
—	スポット AF AF エリアを画像モニター中央の 1 箇所に固定し、ピントを合わせます。
☺	顔優先 AF 人物の顔を認識して、優先的にピントを合わせます。
Cnt. AF	コンティニュアス AF 画像モニター中央の AF エリアから測距し、ピントを合わせます。シャッターボタンを半押ししている間に、被写体の動きを検出すると、被写体の動きに合わせて自動的にピント合わせ動作を行います。
MT AF	マルチターゲット AF 複数の位置にピントを移動し、5 枚の連続撮影をします。（☞P.72）
MF	MF（マニュアルフォーカス） 手動でピントを合わせるときに使います。（☞P.73）
S	スナップ 近距離（約 2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠） 無限遠にピントを固定します。遠くの風景などを撮影するときに使います。

プレ AF

［ON］に設定すると、［フォーカス］で［マルチ AF］、［スポット AF］、［顔優先 AF］、［コンティニュアス AF］、［マルチターゲット AF］を選択している場合に、シャッターを半押ししなくてもカメラが自動的にピント合わせ動作を行います。被写体の動きを検出すると動作するため、ピントが合う速度が速くなる場合があります。

測光

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更できます。

—	マルチ 撮影範囲全体を 256 に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
	中央 中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
	スポット 中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

画像設定

コントラスト、シャープネス、色、彩度など画像の画質を変更できます。

	ビビッド コントラスト、シャープネスを［スタンダード］より高めに、彩度を最高にすることによって、硬い感じの画質にします。
—	スタンダード 通常の画質です。
	カスタム設定 ［コントラスト］、［シャープネス］、［彩度］を 5 段階から選択できます。

	白黒 白黒の画像です。
	セピア セピア調の画像です。

ノイズリダクション

静止画の撮影時に画像のノイズ軽減処理を行います。ノイズの軽減量は、OFF、AUTO、弱、強、MAX から設定できます。設定により、画像の記録完了までの時間が異なります。

フラッシュ調光補正

フラッシュの光量を調整することができます。光量は、-2.0EV ～ +2.0EV の間で、1/3EV 間隔で設定できます。

注意--

フラッシュの撮影距離範囲外（☞P.122）では補正されない場合があります。

オートブラケット ☞P.73

露出／ホワイトバランス／色／フォーカス位置のいずれかを変化させながら、自動的に連続撮影します。

長時間露光

夜景、花火などの被写体の軌跡を撮影する場合に使用する長時間露光の、露光時間を OFF、1 秒、2 秒、4 秒、8 秒から設定できます。

メモ--

- シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚などを使用して撮影してください。
- 撮影中は画像モニターが消灯します。
- 画像のノイズを除去する機能が働きます。そのため、画像の記録完了までに、設定した露光時間の約 2 倍の時間がかかります。
- ISO 感度は ISO 80 から ISO 400 まで設定できます。ISO 感度を ISO 800 から ISO 3200 に設定した状態で長時間露光を設定すると、自動的に ISO 400 に切り替わります。（☞P.78）

カスタムセルフ ☞P.30

セルフタイマーで複数枚撮影したい場合に、撮影間隔と撮影枚数を設定できます。

設定	内容
撮影枚数	1 ～ 10 枚の間で設定できます。購入時の設定は［2 枚］です。
撮影間隔	5 ～ 10 秒までの間で設定できます。購入時の設定は [5 秒] です。

メモ--

- セルフタイマーランプが撮影の直前に毎回 2 秒間点滅し、設定した撮影間隔で撮影されます。フォーカスの位置は、1 回目の撮影で固定されます。
- 撮影を途中で中止したいときは MENU ボタンを押してください。

インターバル撮影

設定した時間間隔で、自動的に撮影できます。撮影間隔は、5 秒～ 1 時間の間で 5 秒単位で設定できます。

注意--

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなる場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。

メモ--

- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。充分に充電された電池または AC アダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。
- 充分に空き容量のある SD メモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

手ブレ補正

［ON］に設定すると、手ブレが起きにくくなります。

注意--

- 被写体ブレ（被写体が風などでゆれてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ--

手ブレが起きやすい状態だと マークが表示されます。（☞P.16）

スローシャッター速度制限

最長シャッタースピードを 1/8 秒、1/4 秒、1/2 秒、OFF から設定することができます。[OFF] に設定すると、ISO 感度の設定値により最長シャッタースピードは異なります。

メモ

- 長時間露光の設定時は、長時間露光が優先されます。
- シーンモードの [夜景ポートレート] または [夜景] 選択時は、[夜景ポートレート] または [夜景] の最長シャッタースピードが優先されます。
- フラッシュが [スローシンクロ] に設定されているときは、最長シャッタースピードが 1 秒になります。
- スローシャッター速度制限を使用する場合、被写体の明るさによっては光量が不足し画像が暗くなることがあります。そのときは以下の方法をお試しください。
  - スローシャッター速度制限を長くする
  - ISO 感度を上げる（☞P.78）
  - フラッシュを使う（☞P.29）

日付入れ撮影

静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日　時：分）を入れることができます。[OFF] に設定すると、日付は入りません。

メモ

- あらかじめ日付・時刻を設定してください。（☞P.96）
- 動画に日付を入れることはできません。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

露出補正 ☞P.76

露出補正の設定をします。

ホワイトバランス ☞P.77

ホワイトバランスの設定をします。

ISO 感度 ☞P.78

ISO 感度の設定をします。

撮影設定初期化

[はい] を選んで ADJ./OK ボタンを押すと、撮影設定メニューの設定が初期設定に戻ります。

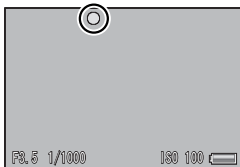
表示される項目について

撮影設定メニューは、撮影モードによって表示される項目が異なります。また、モードダイヤルが SCENE のときは、シーンモードの種類によって表示される項目が異なります。詳しくは P.118 を参照してください。

フォーカス

マルチターゲット AF

シャッターボタンを半押しすると、カメラが自動的に複数のピント位置を決定します。その後全押しすると、それぞれのピント位置にピントを移動し、5 枚の連続撮影を行います。5 枚の静止画を 1 組にして、MP ファイルとして記録します。この機能は、特に望遠撮影時やマクロモード時などに有効です。

ピント位置が検出されると画面に ○ マークが点灯します。検出できなかった場合は、画面に ○ マークが点滅します。決定したピント位置は、再生時のみ表示されます。（☞P.62）

MP ファイル

MP ファイルとは、複数の静止画を 1 つにしたファイル形式です。

注意

- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］の設定は無効になります。（☞P.69）
- 手ブレ補正機能は使用できません。手ブレ補正機能がオンの状態で［マルチターゲット AF］を設定すると、 が に切り替わります。

メモ

- デジタルズーム中に本機能を設定した場合、デジタルズームは無効となり、光学ズームの最大拡大倍率（10.7 倍）で撮影されます。
- ［ホワイトバランス］が［マルチパターン AUTO］に設定されている場合でも、［オート］として動作します。

手動設定（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。画面にフォーカスバーが表示され、撮影距離を固定して撮影することができます。

1 必要に応じて、ADJ./OK ボタンを長押しする

- ADJ./OK ボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度 ADJ./OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。

2 必要に応じて、ズームレバーでズーム位置を調節する

3 ADJ./OK ボタンを上下に押してピントを合わせる

- 上に押すと遠距離方向に、下に押すと近距離方向に移動します。

4 シャッターボタンを押して撮影する

メモ ---

マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

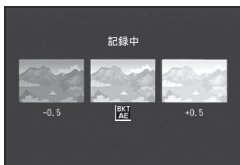
オートブラケット

［オートブラケット］では、ブラケット撮影の種類を選択できます。

メモ ---

［Fn ボタン設定］で［AT-BKT］／［WB-BKT］／［CL-BKT］／［FOCUS-BKT］を設定すると、Fn ボタンでオン／オフを切り替えることができます。（☞P.46）

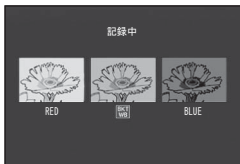
オートブラケット

オートブラケットを［ON］にすると、設定されている露出を基準に -0.5EV（暗い）、± 0（基準の補正値）、+0.5EV（明るい）の 3 段階の露出で、自動的に 3 枚連続して撮影します。

［ON］を選択すると、画面にマークが表示されます。

メモ --

- 露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.76）
- ［ホワイトバランス］が［マルチパターン AUTO］に設定されている場合でも、［オート］として動作します。

ホワイトバランスブラケット

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の 3 枚が自動的に記録されます。

［WB-BKT］を選択すると、画面にマークが表示されます。

メモ --

- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.77）
- ［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが動作しません。

カラーブラケット

カラーブラケットでは、白黒、カラー、セピアの 3 枚の画像が自動的に記録されます。

［CL-BKT］を選択すると、画面にマークが表示されます。

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、彩度について ---

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、彩度は、[画像設定]で選択している項目の設定値が反映されます。ただし、[画像設定]で[白黒]または[セピア]を選択している場合は、[画像設定]の[スタンダード]の設定値が反映されます。

フォーカスブラケット

フォーカスブラケットでは、ピント位置を変化させながら、自動的に5枚の画像を連続撮影します。ピント位置の間隔を調整することもできます。

1 [FOCUS-BKT]を選び、ADJ./OKボタンを右に押す

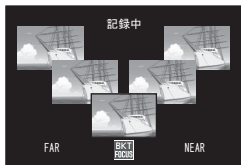
2 ADJ./OKボタンを左右に押してピント位置の間隔を設定し、ADJ./OKボタンを2回押す

- 画面にマークが表示されます。

3 シャッターボタンを半押しする

- [フォーカス]の設定により、ピント合わせが行われます。

4 シャッターボタンを全押しする

- 手順3のピント位置を基準に、5枚連続撮影されます。

メモ ---

- [フォーカス]を[MF]に設定している場合は、測距は行わず、設定しているピント位置で1枚目が撮影されます。
- [ホワイトバランス]が[マルチパターンAUTO]に設定されている場合でも、[オート]として動作します。
- 画像のピント位置と撮影順、記録順は下の表のようになります。

ピントの位置	手前	←	中央 *	→	奥
撮影の順序	2	3	1	4	5
記録の順序	1	2	3	4	5

(*)[フォーカス](☞P.67)の設定で測距したピント位置

露出補正

静止画の写りを意図的に明るくしたり、暗くしたりできます。露出は、–2.0 ～ +2.0 の間で設定できます。+ になるほど明るくなり、– になるほど暗くなります。次のような場合に露出補正をお使いください。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、– 側に調整します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

露出値は ADJ./OK ボタンを上下に押して設定します。ADJ./OK ボタンを押して値を設定すると、画面に設定値が表示されます。

メモ --

明るすぎる、または暗すぎる環境での撮影時などでは、露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

ホワイトバランス

白い被写体が白く写るように調整を行います。購入時、ホワイトバランスモードは［マルチパターン AUTO］に設定されています。単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

アイコン	項目	説明
AUTO	オート	自動的に調整します。
	マルチパターン AUTO	日向／日陰、フラッシュ光の領域ごとに、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日陰などでの撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	白熱灯 2	白熱灯の下での撮影時（[白熱灯] に比べて赤みを残して撮影します）
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
	手動設定	手動設定を行います。（☞P.78）

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

手動設定

1 ［手動設定］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

2 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向けてDISP. ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

3 ADJ./OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ ---

手動設定を解除するには、［手動設定］以外を選択します。

撮影感度（ISO 感度）

ISO 感度は、光に対するフィルムの敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。ISO 感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。ISO 感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］以外を選択します。

メモ ---

- ISO 感度を［AUTO］に設定した場合の ISO 感度の上限は、セットアップメニューの［ISO AUTO 上限設定］（☞P.94）で設定できます。
- ISO 感度を［AUTO］に設定してフラッシュを使用しない場合、ISO 感度は 80 から［ISO AUTO 上限設定］で設定した値の間で変動します。フラッシュを［AUTO］に設定すると、［ISO AUTO 上限設定］で設定した ISO 感度の上限では光量が不足する場合にフラッシュが発光します。
- ISO 感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO 感度を［AUTO］に設定している場合、シャッターボタン半押し時に ISO 感度が表示されますが、実際の ISO 感度とは異なる場合があります。（フラッシュ使用時など）

再生モードでMENUボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、撮影した画像にさまざまな設定ができます。

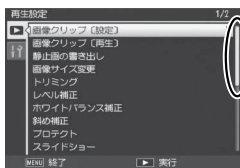
メニューの操作方法

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

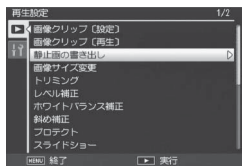
2 ADJ./OKボタンを上下左右に押して、設定を適用したいファイルを表示する

- ［画像クリップ〔再生〕］（☞P.80）、［スライドショー］（☞P.81）、［内蔵メモリーからカードへコピー］（☞P.81）、［ファイル復元］（☞P.81）ではこの手順は不要です。

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

表示している画面の範囲を示しています。

4 ADJ./OKボタンを上下に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でDISP.ボタンを押すと、再生設定メニュータブにカーソルが移動します。
- 一番下の項目でADJ./OKボタンを下に押すと、次の設定画面が表示されます。

5 ADJ./OKボタンを右に押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

再生設定メニュー一覧

画像クリップ〔設定〕 ☞P.82

すぐに呼び出したいファイルを 20 ファイルまで登録できます。

画像クリップ〔再生〕

［画像クリップ〔設定〕］で登録した画像を表示できます。Fn ボタンでも呼び出せます。

［画像クリップ〔設定〕］で登録したファイルのうち、ファイル番号が一番小さいファイルが表示されます。

静止画の書き出し ☞P.64

MP ファイルを静止画として書き出します。

画像サイズ変更

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
10M 4:3F ／10M 4:3N ／9M 3:2F ／7M 1:1F ／7M 16:9F ／5M 4:3F ／3M 4:3F ／2M 4:3F ／2M 4:3N	1M 4:3F	VGA 4:3F
1M 4:3F	VGA 4:3F	

注意--

動画、MP ファイルは画像サイズ変更できません。

トリミング ☞P.83

撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録できます。

レベル補正 ☞P.86

撮影した静止画の明度、コントラストを補正して記録できます。

ホワイトバランス補正 ☞P.87

撮影した静止画の色調を、補正して記録ができます。

斜め補正 ☞P.88

斜め方向から撮影した四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換できます。

プロテクト ☞P.89

撮影した画像を削除できないように保護します。

スライドショー

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示できます。

メモ

- 静止画は 3 秒間表示されます。
- 動画と MP ファイルは、撮影した内容がすべて表示されます。

内蔵メモリーからカードへコピー

内蔵メモリーの内容を SD メモリーカードへコピーできます。

メモ

- コピー先の SD メモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。[はい] を選ぶと、保存できる枚数だけコピーできます。
- SD メモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。
- 内蔵メモリーの内容を SD カードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの [画像クリップ〔設定〕] の登録は解除されます。

DPOF

☞P.90

プリントに必要な情報を設定します。

ファイル復元

削除したファイルを、元の状態で復元できます。

注意

以下の操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元できません。

- 電源を切る
- 再生モードから撮影モードの切り替え
- DPOF、画像サイズ変更、内蔵メモリーからカードへコピー、斜め補正、レベル補正、ホワイトバランス補正、トリミング
- DPOF 設定したファイルの削除
- 内蔵メモリーまたは SD メモリーカードの初期化
- [画像クリップ〔設定〕] で登録または解除
- [画像クリップ〔設定〕] で登録画像の拡大倍率や拡大個所の変更
- [静止画の書き出し] で MP ファイルの書き出し

画像クリップ〔設定〕

すぐに呼び出したいファイルを［画像クリップ〔設定〕］で登録しておくと、再生時に Fn ボタンで表示することができます。

1 ファイルずつ登録／解除する

1 枚表示時に［画像クリップ〔設定〕］を選択すると、表示している画像を登録または解除できます。登録すると、画面にマークが表示されます。

メモ

静止画の場合は、拡大表示した状態で登録すると、拡大倍率と拡大個所が保持され、同じ状態で呼び出すことができます。

複数のファイルを一度に登録／解除する

一覧表示時に［画像クリップ〔設定〕］を選択すると、複数の画像を登録または解除できます。登録または解除するには、ファイルを選択して ADJ./OK ボタンを押します。登録または解除したい画像をすべて選択したら、DISP. ボタンを押します。

注意

- ［画像クリップ〔設定〕］で登録したファイルの名前をパソコンで変更した場合は、［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。
- 内蔵メモリーの内容を SD カードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。
- SD メモリーカード内のファイルを［画像クリップ〔設定〕］で登録すると、SD メモリーカード内に［CLIPINFO］フォルダおよび CLIP.CLI ファイルが作成されます。これらを削除した場合、［画像クリップ〔設定〕］の登録はすべて解除されます。
- 撮影したファイルの名前をパソコンで変更した場合、［画像クリップ〔設定〕］で登録できない場合があります。
- ［画像クリップ〔設定〕］で登録できるのは、本カメラで撮影した画像のみです。

トリミング

［トリミング］では、撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録することができます。

トリミングするには、ズームレバーを Q 側や ⊞ 側に回して、トリミング枠の大きさを指定してから、ADJ./OK ボタンを上下左右に押してトリミング枠の位置を指定します。

ADJ./OK ボタンを押すと、トリミング後の画像が記録されます。

注意 --

- トリミングできるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MP ファイルはトリミングできません。
- トリミングを繰り返し実行すると画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

メモ --

- トリミングをキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- トリミング位置を指定する画面で Fn ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn ボタンを押すと、元の画面に戻ります。
- トリミング位置を指定する画面で 🗑（削除）ボタンを押すと、トリミング枠の縦と横の比率を変更できます。トリミングできる縦横比は 4:3 または 1:1 です。3:2 や 16:9 にはトリミングできません。
- トリミングすると、画像の圧縮率はすべて Fine になります。
- 指定できるトリミング枠の大きさは、元画像のサイズによって異なります。

• トリミング後の画像サイズは、元画像のサイズと、トリミングの段階（トリミング枠の大きさ）によって決まります。([トリミング]画面で最初に表示されるトリミング枠は、2 段階目です。ズームレバーを ⊞ 側に回すと、1 段階目の枠（最大枠）になります。)

縦横比 4：3 にトリミングする場合：

元画像のサイズ	トリミングの段階	トリミング後の画像サイズ
10M 4:3F / 10M 4:3N (3648 × 2736)	1	3072 × 2304
	2、3	2592 × 1944
	4 ～ 6	2048 × 1536
	7 ～ 9	1280 × 960
	10 ～ 13	640 × 480
9M 3:2F (3648 × 2432)	1	3072 × 2304
	2、3	2592 × 1944
	4 ～ 6	2048 × 1536
	7 ～ 9	1280 × 960
	10 ～ 13	640 × 480
7M 1:1F (2736 × 2736)	1 ～ 2	2592 × 1944
	3 ～ 5	2048 × 1536
	6 ～ 8	1280 × 960
	9 ～ 12	640 × 480
7M 16:9F (3648 × 2048)	1、2	2592 × 1944
	3 ～ 5	2048 × 1536
	6 ～ 8	1280 × 960
	9 ～ 12	640 × 480
5M 4:3F (2592 × 1944)	1	2592 × 1944
	2、3	2048 × 1536
	4 ～ 7	1280 × 960
	8 ～ 12	640 × 480
3M 4:3F (2048 × 1536)	1、2	2048 × 1536
	3 ～ 6	1280 × 960
	7 ～ 10	640 × 480
2M 4:3F / 2M 4:3N (1728 × 1296)	1	1728 × 1296
	2 ～ 5	1280 × 960
	6 ～ 9	640 × 480
1M 4:3F (1280 × 960)	1 ～ 3	1280 × 960
	4 ～ 8	640 × 480
VGA 4:3F / VGA 4:3N (640 × 480)	1 ～ 4	640 × 480

縦横比 1：1 にトリミングする場合：

元画像のサイズ	トリミングの段階	トリミング後の画像サイズ
10M 4:3F / 10M 4:3N (3648 × 2736)	1 ～ 3	2304 × 2304
	4 ～ 6	1536 × 1536
	7 ～ 9	960 × 960
	10 ～ 13	480 × 480
9M 3:2F (3648 × 2432)	1、2	2304 × 2304
	3 ～ 5	1536 × 1536
	6 ～ 9	960 × 960
	10 ～ 13	480 × 480
7M 1:1F (2736 × 2736)	1 ～ 3	2304 × 2304
	4 ～ 6	1536 × 1536
	7 ～ 9	960 × 960
	10 ～ 13	480 × 480
7M 16:9F (3648 × 2048)	1 ～ 3	1536 × 1536
	4 ～ 7	960 × 960
	8 ～ 11	480 × 480
5M 4:3F (2592 × 1944)	1 ～ 3	1536 × 1536
	4 ～ 7	960 × 960
	8 ～ 11	480 × 480
3M 4:3F (2048 × 1536)	1、2	1536 × 1536
	3 ～ 6	960 × 960
	7 ～ 10	480 × 480
2M 4:3F / 2M 4:3N (1728 × 1296)	1 ～ 4	960 × 960
	5 ～ 8	480 × 480
1M 4:3F (1280 × 960)	1 ～ 3	960 × 960
	4 ～ 8	480 × 480
VGA 4:3F / VGA 4:3N (640 × 480)	1 ～ 4	480 × 480

レベル補正

［レベル補正］では、撮影した静止画の明度、コントラストを補正し、別ファイルとして記録することができます。

オートで補正する

［AUTO］を選んで ADJ./OK ボタンを右に押すと、左上に元画像、右に補正画像が表示されます。

ADJ./OK ボタンを押すと、補正後の画像が記録されます。

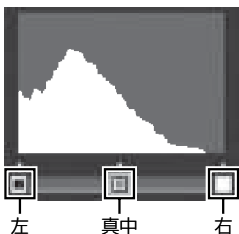
マニュアルで補正する

ポイント

［MANUAL］を選んで ADJ./OK ボタンを右に押すと、左上に元画像、右に補正画像、左下にヒストグラムとポイントが表示されます。

ADJ./OK ボタンを左右に押してポイントを移動すると、レベル補正が行えます。

- ポイントは左端、真中、右端にあります。MENU ボタンを押すたびに切り替えることができます。

ポイント	効果
左	露出オーバーの場合、ポイントを右に移動し、ヒストグラムの山の左端に合わせます。
真中	左に移動すると全体的に明るく、右に移動すると全体的に暗くなります。
右	露出アンダーの場合、ポイントを左に移動し、ヒストグラムの山の右端に合わせます。

- 左右のポイントをそれぞれヒストグラムの山の両端に合わせると、コントラストがはっきりします。
- この画面で Fn ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

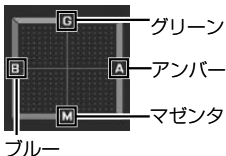
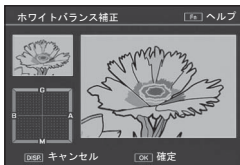
ADJ./OK ボタンを押すと、補正後の画像が記録されます。

注意 --

- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- レベル補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MP ファイルはレベル補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- レベル補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

ホワイトバランス補正

［ホワイトバランス補正］では、撮影した静止画の色調を補正し、別ファイルとして記録することができます。

左上に元画像、左下にホワイトバランス補正マップ、右に補正画像が表示されます。ADJ./OK ボタンを上下左右に押すと、ホワイトバランス補正マップのポイントが移動します。［G］はグリーン、［A］はアンバー、［M］はマゼンタ、［B］はブルーを示し、ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。

ADJ./OK ボタンを押すと補正後の画像が記録されます。

注意 --

- ホワイトバランス補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MP ファイルはホワイトバランス補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ホワイトバランス補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

- キャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- 補正中の色調をリセットしたい場合は、🗑 ボタンを押します。
- 補正中の画面で Fn ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

斜め補正

［斜め補正］では、斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換し、別ファイルとして記録することができます。

注意

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MP ファイルは斜め補正することはできません。

メモ

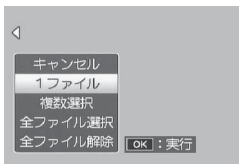
- 処理中は補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大 5 つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OK ボタンを右に押して、目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OK ボタンを上に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.80）、処理速度を速くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間	画像サイズ	補正時間	画像サイズ	補正時間
10M 4:3F	約 23 秒	7M 1:1F	約 13 秒	3M 4:3F	約 8 秒
10M 4:3N	約 22 秒	7M 16:9F	約 13 秒	1M 4:3F	約 3 秒
9M 3:2F	約 17 秒	5M 4:3F	約 12 秒	VGA 4:3F	約 1 秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（☞P.55）

プロテクト

［プロテクト］では、記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

［1 ファイル］を選ぶと、ADJ./OK ボタンを左右に押して選択したファイルをプロテクト／解除できます。

［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選ぶと、全ファイルをプロテクト／解除できます。

複数ファイルを指定する場合

［複数選択］を選ぶと、プロテクト／解除するファイルを個別に指定したり、選択するファイルの範囲を指定できます。

個別に指定する場合：

1 ［1 枚ずつ指定］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

2 コマを選択し、ADJ./OK ボタンを押す

- MENU ボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。
- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して ADJ./OK ボタンを再度押すと解除できます。
- プロテクトするファイルをすべて選択します。

3 Fn ボタンを押す

範囲を指定する場合：

1 ［範囲を指定］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

2 範囲の始点になるファイルを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- MENU ボタンを押すと、1 ファイルずつ指定する画面に切り替わります。
- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP. ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。

3 範囲の終点になるファイルを選び、ADJ./OK ボタンを押す

- 手順 2、3 を繰り返して、範囲をすべて選択します。

4 Fn ボタンを押す

メモ --

一覧表示にしていた場合に [プロテクト] を選択すると、[1 枚ずつ指定] または［範囲を指定］を直接選べます。

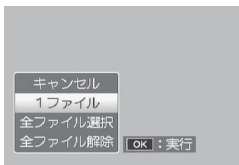
注意 --

初期化を行うとプロテクト設定にかかわらず、すべて削除されます。

DPOF（ディーポフ）

SD メモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店でプリントできます。［DPOF］では、その際に必要な情報を設定できます。

［1 ファイル］を選ぶと、ADJ./OK ボタンを左右に押して選択したファイルを DPOF 設定／解除できます。

［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選ぶと、全ファイルを DPOF 設定／解除できます。

複数ファイルを指定する場合

一覧表示にした状態で［DPOF］を選ぶと、DPOF 設定／解除するファイルを個別に指定したり、選択するファイルの範囲を指定できます。

DPOF 設定をしたい静止画を選択し、ADJ./OK ボタンを上下に押して印刷枚数を指定します。上に押すと枚数が増え、下に押すと枚数が減ります。設定後に ADJ./OK ボタンを押すと、設定が完了し、一覧の画面に戻ります。

メモ --

複数のファイルの DPOF 設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を [0] に指定して ADJ./OK ボタンを押します。

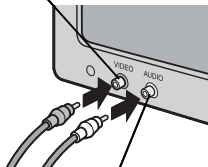
テレビ再生

撮影したファイルをテレビの画面に表示するには、カメラに付属している AV ケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。

映像入力端子（黄色）

音声入力端子（白色）

1 テレビのビデオ入力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

- AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認して、AV 出力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

3 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

4 POWER（電源）ボタンを押す、または ▶（再生）ボタンを長押しして、電源をオンにする

注意 --

- AV ケーブルで本機を接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AV ケーブルは無理に差し込まないでください。
- AV ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AV ケーブルの使用中は、AV ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ --

- ビデオのビデオ入力端子に AV ケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式は NTSC 方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器が PAL 方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューで PAL 方式に設定してから接続してください。（☞P.96）

7　セットアップメニュー

撮影設定メニュー（☞P.66）や再生設定メニュー（☞P.79）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定を変更できます。

メニューの操作方法

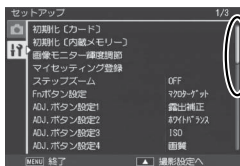
1 MENU ボタンを押す

・撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを左に押す

3 ADJ./OK ボタンを下に押す

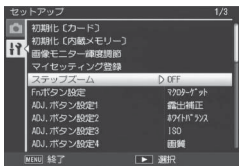
・セットアップメニューが表示されます。

・シーンモードまたは連写モードの場合は、下に 2 回押します。

表示している画面の範囲を示しています。

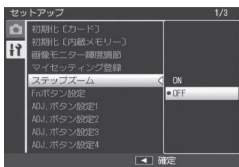
4 ADJ./OK ボタンを右に押す

5 ADJ./OK ボタンを上下に押して、設定する項目を選ぶ

・この画面で DISP. ボタンを押すと、手順 3 の画面に戻ります。

・一番下の項目で ADJ./OK ボタンを下に押すと、次の設定画面が表示されます。

6 ADJ./OK ボタンを右に押す

・設定項目の選択肢が表示されます。

7 ADJ./OK ボタンを上下に押して、選択肢を選ぶ

8 ADJ./OK ボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、MENU ボタンまたは ADJ./OK ボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。
- 手順 8 で ADJ./OK ボタンを左に押すと、設定が確定して手順 5 の画面に戻ります。

メモ

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

セットアップメニュー一覧

初期化〔カード〕

［はい］を選んで Fn ボタンを押すと、SD メモリーカードを初期化します。

初期化〔内蔵メモリー〕

［はい］を選んで Fn ボタンを押すと、内蔵メモリーを初期化します。削除したくない画像があるときは、SD メモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。（☞P.81）

画像モニター輝度調節

ADJ./OK ボタンを上下に押して、画像モニターの明るさを調整できます。

マイセッティング登録 ☞P.97

現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録できます。

ステップズーム

［ON］に設定すると、ズームの焦点距離を 8 段階（35mm フィルムカメラ換算で 28mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mm、300mm 相当）に固定できます。マクロモード時、ステップズームの焦点距離は 35mm フィルムカメラ換算でおよそ 31mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mm、300mm になります。

Fn ボタン設定 ☞P.47

Fn ボタンに機能を登録します。

ADJ. ボタン設定 1 ～ 4 ☞P.44

ADJ./OK ボタンに機能を登録します。

ISO AUTO 上限設定

［ISO 感度］を（☞P.78）［AUTO］に設定した場合の上限感度を設定できます。ISO 感度が上がりすぎないようにする場合に使用します。

AF 補助光

［ON］に設定すると、オートフォーカスでの撮影時に、AF 補助光を発光します。

操作音

カメラの操作音の種類を設定できます。

設定	内容
すべて	すべて鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、水準器音のみ鳴らす

メモ---

- 実行できない動作を行おうとしたときは、［操作音］の設定にかかわらず、警告音が鳴ります。
- シーンモードで［ペット］または［マナー］を選んでいる場合は、［操作音］の設定にかかわらず、すべての音が鳴りません。

操作音音量設定

操作音の音量を変更できます。

メモ---

- ［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合は、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。
- シーンモードで［ペット］または［マナー］を選んでいる場合は、［操作音］の設定にかかわらず、すべての音が鳴りません。

画像確認時間

撮影後に表示する確認画像の表示時間を変更できます。［HOLD］を選択すると、次にシャッターボタンを半押しするまで確認画像を表示し続けます。［HOLD］に設定すると、確認表示中の画像を拡大表示したり（☞P.34）、削除したり（☞P.35）することができます。

オートパワーオフ

節電のために自動的に電源がオフになる時間を設定できます。［OFF］を選択、またはインターバル撮影時（☞P.70）やパソコンまたはプリンターと接続しているときはオートパワーオフ機能は働きません。

画像モニター節電

［ON］に設定すると、画像モニターを点灯した状態で約 5 秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度を落とします。シンクロモニターモードの場合（☞P.38）は、無効となります。

デジタルズーム切替 ☞P.98

[オートリサイズ] を選択すると、デジタルズームで撮影するときに、撮影する画像から必要な部分を切り出し、画像サイズを変更して記録します。[通常] を選択すると、通常のデジタルズームが使用できます。

水準器設定 ☞P.40

撮影する画像が水平かどうかを、水平インジケーターや水準器音で確認できます。

グリッドガイド表示設定 ☞P.38

撮影モード時に表示するグリッドを設定できます。

設定	内容
	縦横に 3 分割します。3 分割構図作りに適したグリッドです。
	縦横に4分割し、対角線が入ります。被写体の中心が決めやすく、建築物や商品などの撮影に適したグリッドです。
	縦横に 2 分割したものをベースに、中心はグリッド線を省いて被写体をとらえやすくしています。動きのある被写体もとらえすいグリッドです。

撮影情報表示フレーム

[ON] に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示（☞P.38）のときに、撮影情報フレームを表示することができます。動画モード時は表示できません。

最短撮影距離表示

[表示] に設定すると、ズームの位置によって変化する最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。シーンオートモード時は表示されません。

縦横自動回転再生

[ON] に設定すると、カメラの縦横の向きに応じて再生画像が自動回転します。

白とび警告表示 ☞P.39

[ON] に設定すると、再生モードで DISP. ボタンを押した場合にハイライト表示に切り替えられます。

カード連続 NO.

SD メモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定	内容
ON (連番にする)	R0010001.jpg ～ R9999999.jpg までのファイル名が、自動的に付きます。SD メモリーカードを入れ替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF (連番にしない)	新しい SD メモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg ～ RIMG9999.jpg までのファイル名が付きます。ファイル名が RIMG9999 になると、それ以上は記録できません。

 メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合は、常に［OFF］の場合と同様になります。
- DL-10 を使ってパソコンに転送する（☞P.107）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。

 注意

ファイル名が RIMG9999 または R9999999 になると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。SD メモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SD メモリーカードを初期化してお使いください。

日時設定 ☞P.24

カメラの日時を設定できます。

メモ

- 電池を取り出してから約 1 週間経過すると、設定した日付･時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに 2 時間以上セットしてください。

Language ／言語※

画像モニターに表示される言語を変更できます。日本国内で販売されている CX3 で選択できる言語は、日本語と英語のみです。

ビデオ方式※

付属の AV ケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見る際のビデオ方式を設定できます。NTSC 方式（日本などで使用されている方式）と PAL 方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）が選択できます。SECAM 方式には対応していません。

※ 初期設定は、仕向け地によって異なります。

マイセッティング登録

マイセッティングは 2 種類登録できます。モードダイヤルを MY1 に合わせると［MY1］で登録した設定で、モードダイヤルを MY2 に合わせると［MY2］で登録した設定で撮影できます。

1 マイセッティングとして登録したい内容に、カメラの設定を変更する

2 セットアップメニュー（☞P.92）で［マイセッティング登録］を選び、右に押す

- 確認のメッセージが表示されます。

3 ［MY1］または［MY2］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

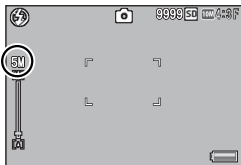
- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。

［マイセッティング登録］で保持される内容

撮影モード（📷/🎥/MY1/MY2/SCENE/DR/連写）	マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
画質・サイズ	フォーカス
プレ AF	測光
画像設定	フラッシュ調光補正
ダイナミックレンジ拡大効果	＋通常撮影
オートブラケット	CL-BKT
FOCUS-BKT	WB-BKT
長時間露光	カスタムセルフ
ノイズリダクション	手ブレ補正
スローシャッター速度制限	日付入れ撮影
露出補正	ホワイトバランス
ISO 感度	ズーム位置
マクロ	フラッシュモード
シーンモード	セルフタイマー
DISP. モード	ステップズーム
デジタルズーム切替	水準器設定
グリッドガイド表示設定	最短撮影距離
文字濃度	

デジタルズーム切替

通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存します。これに対し、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選ぶと、切り出した部分をそのまま記録するので、拡大による画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。

ズームレバーを［♠］（望遠）側に回し続け、ズームバー表示が［♠］側の端にある状態でいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを［♠］側に回すとオートリサイズズームが動作します。

さらにズームレバーを［♠］側に回すごとに、1 段階ずつ画像サイズが変更されます。その際、記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。

オートリサイズズームは、［画質・サイズ］（☞P.67）を10M 4:3F または10M 4:3N に設定しているときのみ動作し、それ以外の場合はデジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

画像・サイズ	ズーム倍率	焦点距離（*）
10M 4:3F ／ 10M 4:3N	1.0 倍	300mm
5M 4:3F	1.4 倍	420mm
3M 4:3F	1.8 倍	530mm
1M 4:3F	2.9 倍	850mm
VGA 4:3F	5.7 倍	1710mm

（*）35mm 判カメラ換算値です。

注意 --

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、［オートリサイズ］に設定していても通常のデジタルズームが有効になります。
- 画質を Normal モードに設定してオートリサイズズームを使用すると、記録時に Fine モードに変換されます。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接 USB ケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意 --

AVI ファイル（動画）、MP ファイルは印刷できません。

メモ --

- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格である PictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

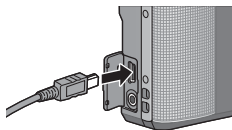
カメラとプリンターの接続

カメラとプリンターの接続には、付属の USB ケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。

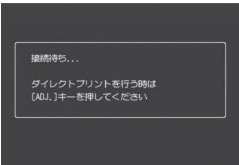
- 自動的にカメラの電源がオンになります。

メモ --

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してから USB ケーブルを外してください。

注意 --

- USB ケーブルは無理に差し込まないでください。
- USB ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

静止画の印刷

PictBridge 対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。内蔵メモリーの画像を印刷したい場合は、SD メモリーカードをセットしないでください。

注意 ---

印刷が完了するまで、USB ケーブルを外さないでください。

メモ ---

- 送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。
- プリンターに接続しているのに、パソコン接続のメッセージが表示された場合は、再接続を行い、接続後 2 秒以内に ADJ./OK ボタンを押してください。

静止画を印刷する前に、カメラとプリンターを接続してください。プリンターが印刷できる状態の場合、［接続待ち ...］画面が表示されます。この状態で ADJ./OK ボタンを押すと、ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

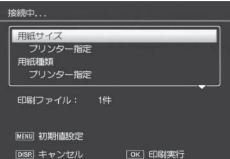
1 枚またはすべての静止画を印刷する

1 印刷したい静止画を表示して ADJ./OK ボタンを押す

2 ［1 ファイル］または［全ファイル］を選び、ADJ./OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

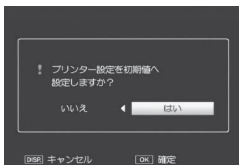
3 項目を選び、ADJ./OK ボタンを右に押して詳細項目を表示する

- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると［接続中・・・］が消え、［ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。

- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1 枚に何コマ印刷するかを設定します。1 枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップメニューの日時設定で設定した書式になります。日付入れ撮影した静止画（☞P.71）は、印刷時に自動で印字 OFF となって印刷されます。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面／両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は 1 枚となります。P.102 の手順 3 で印刷枚数を複数枚設定しても、1 枚のみ印刷されます。

※ 各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。

メモ

- 手順 3 の画面で MENU ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面で［はい］を選び、ADJ./OK ボタンを押してください。
- ［いいえ］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

4 詳細項目を選び、ADJ./OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。
- 手順 3、4 を繰り返して、変更したい項目を設定します。

5 ADJ./OK ボタンを押す

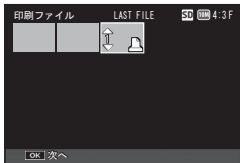
- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP. ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 ズームレバーを ▦（サムネイル表示）側に回して一覧表示にする

2 印刷したい静止画を表示して ADJ./OK ボタンを押す

3 ADJ./OK ボタンを上下に押して、印刷枚数を指定する

- 上に押すと枚数が増え、下に押すと枚数が減ります。
- 手順 2、3 を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択します。

4 ADJ./OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

5 項目を選び、ADJ./OK ボタンを右に押して詳細項目を表示する

- この後の手順は P.100 の手順 3 以降を参照してください。

メモ --

- プリンターのマーク（ 🖨 ）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1 枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

画面の表示は、ご使用のパソコンの OS によって異なります。

Windows をご使用の場合

画像をパソコンに取り込むには、画像取り込みソフトウェア DL-10 を使用する方法と、しない方法があります。DL-10 は付属の CD-ROM からインストールします。

付属の CD-ROM を使うために必要な環境

付属の CD-ROM を使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書などで、ご確認ください。

対応 OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4（日本語版） Windows XP Home Edition Service Pack 3（日本語版）/ Professional Service Pack 3（日本語版） Windows Vista Service Pack 2（日本語版） Windows 7（日本語版）
CPU	Windows 2000 / Windows XP：Pentium® Ⅲ 500MHz 以上 Windows Vista / Windows 7：Pentium® Ⅲ 1GHz 以上
メモリー	Windows 2000 / Windows XP：256MB 以上 Windows Vista：512MB 以上 Windows 7：1GB 以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB 以上
ディスプレイの解像度	1024 × 768 ドット以上
ディスプレイの表示色	65000 色以上
CD-ROM ドライブ	上記パソコン本体で使用可能な CD-ROM ドライブ
USB ポート	上記パソコン本体で使用可能な USB ポート

注意 --

- 64 ビット版 OS には対応していません。
- OS をアップグレードしたパソコンの場合、正常に USB 機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OS のシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCI バスなど）を利用して増設した USB ポートへの接続はサポートできません。
- HUB などのほかの USB 機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

CD-ROM の構成

付属の CD-ROM をパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

Windows 2000 / Windows XP の場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

- 自動再生画面が表示されたら、［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、インストーラー画面が表示されます。

ソフトウェアをインストールする

［ソフトウェアのインストール］をクリックすると、次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
DL-10	画像をパソコンに一括取り込みします。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。Windows 7 のライブラリには対応していません。
USB ドライバー	リコーの過去機種と Windows 98 / Windows 98 SE / Windows Me / Windows 2000 を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIA ドライバー	リコーの過去機種と Windows XP / Windows Vista / Windows 7 を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- DC Software では、従来機種に付属していた Caplio Software とはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
Caplio Viewer	DU-10（本カメラでは使用しません）
Caplio Server	SR-10（本カメラでは使用しません）
Caplio Setting	ST-10（本カメラでは使用しません）

従来機種の付属 CD-ROM から Caplio Software をインストールしていた場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、Caplio Software をアンインストールしてから DC Software をインストールするようメッセージが表示されます。
- インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- DL-10 はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

1 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows 2000 / Windows XP の場合

- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されたら、コンピュータへのアクセス要求の［許可］（Wondows 7 は［はい］）を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

2 言語を選択し、画面にしたがってインストールをする

- 続けて Irodio & VideoStudio のインストーラが起動します。画面の指示にしたがってインストールしてください。

3 再起動を促すメッセージが表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択して、[完了]をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

4 DL-10 の[ブロックを解除する]ボタンをクリックする

ソフトウェアを削除(アンインストール)するには

- DC Software または Irodio & VideoStudio をアンインストールするには、[コントロールパネル]の[プログラムのアンインストール](Windows XP の場合は[プログラムの追加と削除]、Windows 2000 の場合は[アプリケーションの追加と削除])から行ってください。
- アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Adobe Reader をインストールする

Adobe Reader は、使用説明書(PDF ファイル)を表示をするためのソフトウェアです。すでに Acrobat Reader または Adobe Reader がパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

メモ

- Adobe Readerについては、Adobe Readerのヘルプを参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内の Irodio Photo & Video Studio.exe をダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studio のみをインストールすることができます。
- Adobe Reader 9.1 をインストールするためには、Microsoft InternetExplorer 6.0、6.0(Service Pack 2)、または 7.0、8.0、Firefox 2.0 または 3.0 が必要です。Microsoft Update より入手可能です。
- Adobe Reader 9.1 をインストールするためには、MSI(Microsoft Windows Installer) 3.1 以上が必要です。Microsoft Update より入手可能です。

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

1 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

2 ［Adobe Reader］>［Japanese］>［AdbeRdr910_ja_JP］（AdbeRdr910_ja_JP.exe）をダブルクリックする

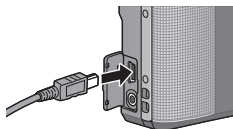
- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

3 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Adobe Readerをインストールする

画像をパソコンに取り込む

お使いのパソコンに、撮影した画像を転送します。

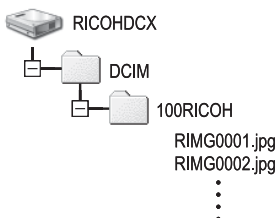
1 カメラとパソコンを付属のUSBケーブルで接続する

- 接続する前は必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 接続すると、カメラの電源がオンになります。

2 画像をパソコンに取り込む

DL-10がインストールされている場合：

- DL-10が自動的に起動して画像の転送が開始されます。
- DL-10は［マイドキュメント］フォルダの中に自動的に［Digital Camera］フォルダを作成し、取り込んだ画像を撮影日ごとのフォルダに保存します。詳しくはCD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

DL-10 がインストールされていない場合：

- 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーします。
- SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードのファイル、SD メモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。

Windows XP での表示例

3 転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する

- タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックしてから、［USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）を安全に取り外します］を選択します。ドライブの表示は、ご使用のパソコンによって異なります。その後 USB ケーブルを取り外してください。
- Windows 7 でアイコンが見つからない場合、タスクバーの ▲ ボタンをクリックしてください。

注意 ---

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- USB ケーブルを無理に差し込んだり、差し込んだ状態で無理な力を加えないでください。USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ ---

本機にはパソコン内の画像を表示、編集するソフトウェア Irodio Photo & Video Studio が付属しています。Irodio Photo & Video Studio の使い方については、Irodio Photo & Video Studio のヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studio についての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/）を参照してください。

Macintosh をご使用の場合

本カメラは、以下の OS に対応しています。

- Mac OS 9.0 〜 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 〜 10.6.1

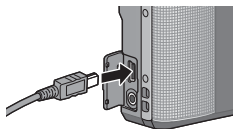
注意 --

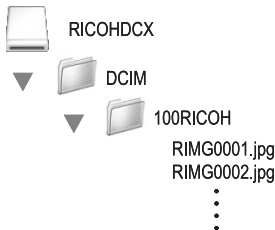
Macintosh では、VM-1 ソフトウェアと「使用説明書（ソフトウェア編）」を使用することができます。VM-1 をインストールする方法については P.111 を参照してください。Mac OS 9 の場合、「使用説明書（ソフトウェア編）」を表示するには Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

画像をパソコンに取り込む

お使いのパソコンに、撮影した画像を転送します。

1 カメラとパソコンを付属の USB ケーブルで接続する

- 接続する前は必ずカメラの電源をオフにしてください。
- 接続すると、カメラの電源がオンになります。

2 画像をパソコンに取り込む

- 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーします。
- SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードのファイル、SD メモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。

3 転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する

- 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップしてから USB ケーブルを取り外してください。

注意 --

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- USB ケーブルを無理に差し込んだり、差し込んだ状態で無理な力を加えないでください。USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。
- Mac OS 9 の場合は［特別］メニューで、Mac OS X の場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- Macintosh に接続すると、SD メモリーカードに「FINDER.DAT」「.DS_Store」が書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。気になる場合は、SD メモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

MP ファイルビューワを使う

M 連写プラス／超高速連写／マルチターゲット AF では、1 回に撮影した静止画を、1 つの MP ファイルとして記録します。

MP ファイルビューワ VM-1 を使うと、MP ファイルを Macintosh のパソコンで再生したり、静止画に書き出したりすることができます。

ここでは、付属の CD-ROM 内の VM-1 ソフトウェアのインストールおよびアンインストールの方法について説明しています。MP ファイルビューワを使って、パソコンで MP ファイルを再生する方法および MP ファイルを静止画に書き出す方法の詳細については、CD-ROM に収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

付属の CD-ROM を使うために必要な環境

付属の CD-ROM を使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書などで、ご確認ください。

対応 OS	Mac OS X 10.4 ～ 10.6.1
Macintosh 本体	Apple 社製 Macintosh シリーズ
内蔵メモリー	Mac OS X 10.4　256MB 以上 Mac OS X 10.5　512MB 以上 Mac OS X 10.6　1GB 以上
ハードディスクの空き容量	5MB 以上
CD-ROM ドライブ	上記 Macintosh 本体で使用可能な CD-ROM ドライブ

メモ --

VM-1 は、日本語、英語、フランス語、簡体字中国語に対応しています。

VM-1 をインストールする

1 Macintosh を起動し、CD-ROM ドライブに、付属の CD-ROM をセットする

2 ［RICOH］＞［VM-1］＞［VM-1 Installer.pkg］アイコンをダブルクリックする

- ［VM-1 のインストール］画面が表示されます。

3 画面にしたがってインストールをする

VM-1 を削除（アンインストール）するには ------------------------

- ［アプリケーション］＞［ユーティリティ］＞［VM-1 Utility］＞［VM-1 Uninstaller］アイコンをダブルクリックし、画面に従ってアンインストールしてください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。
- アンインストール中にエラーが発生する場合は、Mac OS のバージョンを最新のものにアップデートしてください。

お困りのときは

エラーメッセージ

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の参照先を確認して対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
カードをいれてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.22
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.96
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.96
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.20
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.89
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.20
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.35 P.93
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を 0 にしてください。	P.102
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.93
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.93
使用できないカードです。	再度初期化しなおしてください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.93
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
メモリー容量不足です。記録できません。	記録可能枚数が 0 枚になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.20
ファイル復元可能なファイルが見つかりません。	復元できるファイルがありません。	P.81
○○ * できません。	このカメラで撮影した画像ではありません。撮影したカメラで処理を実行してください。また、一部に繰り返して実行できない処理があります。	−

* 「○○」には画像サイズ変更やトリミング、レベル補正、斜め補正などが入ります。

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	電池を正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.22 P.128
	使用できない電池を使用している。	専用の電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.19
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.23
	AC アダプターが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.128
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.22
	カメラが高温になったため、電源が自動的に切れている。	そのまま温度が下がるまで待ち、電源を再投入する。なお、急激に温度を下げることはしないでください。	ー
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.23
	電池が消耗している。	電池を充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.128
	使用できない電池を使用している。	専用の電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.19
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.22 P.128
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用の電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.19
電池を充電できない。	電池の寿命。	新しい電池に交換する。	P.22
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	電池を充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.128
	電源が入っていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.23
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.32
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.26
	SD メモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.93
	SD メモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.35 P.22
	SD メモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.22
	フラッシュが充電中。	フラッシュモードのマークの点滅が終了するまで待つ。	P.29
	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	－
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.94
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.23 P.93
	ビデオケーブル／ AV ケーブルを差した状態になっている。	ビデオケーブル／ AV ケーブルを抜く。	－
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.38
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	－
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.25
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.25 P.73
ピントが合っていないのに、画像モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.28

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。（ マークが表示される）	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両ひじを身体に付けて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.25 P.70
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO 感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.29 P.78 P.70
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • ブラケット撮影 • 連写モード • 動画モード • シーンモードの［ペット］ • シーンモードの［マナー］ また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている場合がある。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.29 P.118
	フラッシュが発光禁止になっている。	発光禁止を解除する。	P.29
	電池が消耗している。	電池を充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.128
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、フラッシュの光が届く範囲を超えている。	被写体に近づいて撮影する。ISO 感度を変更する。	P.78 P.122
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.76
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.69
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。または、被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.29 P.69
	露出がオーバーしている。（[!AE］マークが表示される）	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.76 P.69
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.93
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	発光禁止を解除する。	P.29
	露出が不足している。（[!AE］マークが表示される）	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.76 P.69
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.93
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.77

症状	原因	処置	参照先
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.38
AF 動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	−
水平インジケーターが表示されない。	［水準器設定］を［OFF］または［音のみ］に設定している。	［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定する。	P.40
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP. ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.38
	カメラが上下逆さま（シャッターボタンが下向き）になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—
セルフタイマーランプが点灯しない。	シーンモードの［ペット］、［マナー］に設定している。	モードを変更する。	P.50 P.51

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.32
	ビデオケーブル／ AV ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.91
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.96
SD メモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SD メモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていない SD メモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	−
	本機で初期化していない SD メモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.20 P.93
	正常に記録されていない SD メモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	−
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	−
	使用中の SD メモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	−

症状	原因	処置	参照先
画面が消えた。	電池が消耗している。	電池を充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.128
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.23
画面の一部が黒く点滅する。	画像に白飛びの部分があるため、ハイライト表示になっている。	直射日光を避ける、露出を−側に補正するなどして、撮りなおすことをお勧めします。	P.39 P.76
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.89
	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20
SD メモリーカードを初期化できない。	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20

その他

症状	原因	処置	参照先
SD メモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.22
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	電池を充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.21 P.128
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度 POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.23
		電池をセットしなおす。AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.21 P.128
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.96
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約 1 週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定しなおす。	P.24
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが［OFF］になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.94
操作音が鳴らない。	シーンモードの［ペット］、［マナー］に設定している。	モードを変更する。	P.50 P.51
	消音が設定されている。	［操作音音量設定］で音量なし以外を設定する。	P.94
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.96
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.91
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	−

各撮影モードで使用できる機能

各撮影モードで使用できる機能は以下のとおりです。

					S-AUTO	SCENE						
											mini	
（マクロ）[*1]			○	○	—	—	—	—	—	—	○	—
（フラッシュ）			○	—	○[*2]	○	○	—	○[*3]	○[*4]	○	—
（セルフタイマー）[*5]			○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
デジタルズーム			○	○[*6]	○	○	○	○	○	○	○	○
撮影設定メニュー	ダイナミックレンジ拡大効果		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	＋通常撮影		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	画質・サイズ		○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	動画サイズ		—	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	文字濃度		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	サイズ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	フォーカス	マルチ AF[*8]	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
		スポット AF	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
		顔優先 AF[*9]	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
		コンティニュアス AF	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
		マルチターゲット AF[*10]	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		MF	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		スナップ	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
		∞	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
	プレ AF[*11]		○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
	測光		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	画像設定		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ノイズリダクション		○	—	—	—	—	—	○	○	—	○
	フラッシュ調光補正		○	○	—	○	○	—	—	○	○	—
	オートブラケット[*13]		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長時間露光[*14]		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	カスタムセルフ		○	—	—	○	○	○	○	○	○	○

*1　［フォーカス］は［スポット AF］に固定。［フォーカス］が［MF］の場合、動作しない
*2　［発光禁止］と［AUTO］のみ選択可
*3　［赤目軽減］と［スローシンクロ］のみ選択可
*4　［発光禁止］、［AUTO］または［スローシンクロ］のみ選択可
*5　［インターバル撮影］を設定すると、セルフタイマーは無効。［フォーカス］が［マルチターゲット AF］の場合、カスタムセルフは選択不可
*6　ズーム機能はデジタルズームのみ使用可能（[HD] 1280：最大 2.8 倍、[VGA] 640 または [QVGA] 320：最大 4.0 倍まで）
*7　［[10M] 4:3F］または［[3M] 4:3F］のみ選択可
*8　デジタルズーム時は［スポット AF］として動作

付録

10

			SCENE											DR
（マクロ）*1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
（フラッシュ）			○	○	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
（セルフタイマー）*5			○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	○
デジタルズーム			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
撮影設定メニュー	ダイナミックレンジ拡大効果		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	＋通常撮影		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	画質・サイズ		○	○	○	○	—	○ *7	○	—	—	—	—	○
	動画サイズ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	文字濃度		—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	サイズ		—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	フォーカス	マルチ AF*8	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		スポット AF	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		顔優先 AF*9	○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	—
		コンティニュアス AF	○	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	—
		マルチターゲット AF*10	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		MF	—	—	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○
		スナップ	○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		∞	○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
	プレ AF*11		○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	測光		—	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	画像設定		—	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○ *12
	ノイズリダクション		○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	○
	フラッシュ調光補正		○	○	○	○	—	○	—	—	—	—	—	—
	オートブラケット *13		—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	長時間露光 *14		—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	カスタムセルフ		○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	○

*9 ホワイトバランスは自動で最適なものが選択され、アイコンは非表示。顔が認識されなかった場合は［マルチパターン AUTO］として動作

*10 フラッシュは発光禁止。セルフタイマーでカスタムセルフは選択不可。デジタルズーム、［長時間露光］、［カスタムセルフ］、［インターバル撮影］、［手ブレ補正］は無効。［ホワイトバランス］は［オート］として動作

*11 ［フォーカス］が［MF］、［スナップ］または［∞］の場合は使用不可

*12 ［カラー］、［白黒］または［セピア］のみ選択可

*13 フラッシュは発光禁止。［長時間露光］は無効。［フォーカス］が［マルチターゲット AF］の場合は使用不可

*14 ［手ブレ補正］は無効

					S-AUTO	SCENE						
											mini	
撮影設定メニュー	インターバル撮影 *15		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手ブレ補正 *16		○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
	スローシャッター速度制限		○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
	日付入れ撮影		○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
	露出補正		○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
	ホワイトバランス *17	マルチパターンAUTO	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		上記以外	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○
	ISO 感度		○	—	—	○	—	○	—	—	○	—
	撮影設定初期化		○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
セットアップメニュー	Fn ボタン設定 *18 19	マクロターゲット	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		ステップズーム	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		AE ロック	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		AF/ 顔優先 AF	○	○	—	—	○	—	○	○	○	—
		AF/ コンティニュアス AF	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		AF/ マルチターゲット AF	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		AF/MF	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		AF/ スナップ	○	○	—	—	○	○	○	○	○	—
		AT-BKT	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		WB-BKT	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		CL-BKT	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		FOCUS-BKT	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ADJ. ボタン設定 1 ～ 4 *20	露出補正	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		ホワイトバランス	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○
		ISO	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		画質	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—
		フォーカス	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		画像設定	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		測光	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		オートブラケット	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		調光補正	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		文字濃度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	撮影情報表示フレーム		○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
	上記以外		○	○	—	○	○	○	○	○	○	○

*15 セルフタイマーを設定すると［インターバル撮影］は無効。［フォーカス］が［マルチターゲット AF］の場合は使用不可
*16［長時間露光］使用時、［フォーカス］が［マルチターゲット AF］の場合は使用不可
*17［画像設定］が［白黒］または［セピア］の場合は使用不可

			SCENE											DR
				Hi BW	OFF					10M	2M	60	120	
撮影設定メニュー	インターバル撮影[*15]		—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	手ブレ補正[*16]		○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	○
	スローシャッター速度制限		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	日付入れ撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
	露出補正		○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	ホワイトバランス[*17]	マルチパターンAUTO	○	—	○	○	—	○	—	—	—	—	—	○
		上記以外	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	ISO 感度		—	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
	撮影設定初期化		—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
セットアップメニュー	Fn ボタン設定[*18 19]	マクロターゲット	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ステップズーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		AE ロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		AF/ 顔優先 AF	○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	—
		AF/ コンティニュアス AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		AF/ マルチターゲット AF	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		AF/MF	—	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		AF/ スナップ	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
		AT-BKT	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		WB-BKT	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		CL-BKT	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		FOCUS-BKT	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	ADJ. ボタン設定 1 ～ 4[*20]	露出補正	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		ホワイトバランス	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
		ISO	—	—	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		画質	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	○
		フォーカス	—	—	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		画像設定	—	—	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		測光	—	—	○	—	—	—	○	○	○	○	○	○
		オートブラケット	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		調光補正	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		文字濃度	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
	撮影情報表示フレーム		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	上記以外		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*18 シーンモードの［ミニチュアライズ］の場合、［Fn ボタン設定］で登録した機能は使用不可

*19 シーンモード、動画モード時は、○以外の項目も登録可能ですが、動作しません

*20 マナー以外のシーンモード、動画モード時の項目は変更不可

主な仕様

カメラ部有効画素数		約 1000 万画素
撮像素子		1/2.3 型 CMOS（総画素数約 1060 万画素）
レンズ	焦点距離	4.9 ～ 52.5mm（35mm 換算値 28 ～ 300 mm）
	F 値	F3.5 ～ F5.6
	撮影距離	通常撮影：約 30cm ～∞（広角）、約 1.5m ～∞（望遠）（レンズ先端から）
	範囲	マクロ撮影：約 1cm ～∞（広角）、約 28cm ～∞（望遠）、約 1cm ～∞（ズームマクロ）（レンズ先端から）
	レンズ構成	7 群 10 枚（非球面レンズ 5 面 4 枚）
ズーム倍率		光学ズーム 10.7 倍、デジタルズーム 4.8 倍、オートリサイズズーム約 5.7 倍（画像は VGA）
フォーカスモード		マルチ AF（コントラスト AF 方式）／スポット AF（コントラスト AF 方式）／顔優先 AF ／コンティニュアス AF ／マルチターゲット AF ／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（AF 補助光あり）
ブレ補正機能		イメージセンサーシフト方式ブレ補正機能
シャッタースピード	静止画	8 秒、4 秒、2 秒、1 ～ 1/2000 秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。）
	動画	1/30 ～ 1/2000 秒
露出制御	測光モード	マルチ（256 分割）／中央重点測光／スポット測光
	露出制御モード	プログラム AE
	露出補正	マニュアル補正（+2.0 ～ -2.0EV 1/3EV ステップ）、オートブラケット機能（-0.5EV、± 0、+0.5EV）
ISO 感度（標準出力感度）		AUTO ／ ISO 80 ／ ISO 100 ／ ISO 200 ／ ISO 400 ／ ISO 800 ／ ISO 1600 ／ ISO 3200
ホワイトバランスモード		オート／マルチパターン AUTO ／屋外／曇天／白熱灯／白熱灯 2 ／蛍光灯／手動設定、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／発光禁止
	調光範囲	約 20cm ～ 4.0m（広角）、約 28cm ～ 4.0m（望遠）（ISO AUTO ／ ISO 1600、レンズ先端から）
	調光補正	± 2.0EV 1/3EV ステップ
	充電時間	約 5 秒間
画像モニター		3.0 型 透過型液晶、約 92 万ドット
撮影モード		オート撮影モード／シーンオートモード／シーンモード（ポートレート／スポーツ／ペット／夜景ポートレート／夜景／ミニチュアライズ／遠景／高感度／ハイコントラスト白黒／マナー／ズームマクロ／文字／斜め補正）／マイセッティングモード／動画モード／ダイナミックレンジダブルショットモード／連写モード
画質モード [*1]		F(Fine)、N(Normal)

記録画素数	静止画 マルチピクチャー	3648 × 2736、3648 × 2432、2736 × 2736、 3648 × 2048、2592 × 1944、2048 × 1536、 1728 × 1296（マルチピクチャーのみ）、1280 × 960、 640 × 480
	動画	1280 × 720、640 × 480、320 × 240
	文字	3648 × 2736、2048 × 1536
記録媒体		SD メモリーカード、SDHC メモリーカード（32GB まで）、内蔵メモリー（約 88MB）
記録データ容量	3648 × 2736	N：約 2169KB ／画面、F：約 3704KB ／画面
	3648 × 2432	F：約 3295KB ／画面
	2736 × 2736	F：約 2784KB ／画面
	3648 × 2048	F：約 2779KB ／画面
	2592 × 1944	F：約 2287KB ／画面
	2048 × 1536	F：約 1474KB ／画面
	1728 × 1296	N：約 603KB ／画面
	1280 × 960	F：約 812KB ／画面
	640 × 480	F：約 197KB ／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*2
	マルチピクチャー	CIPA DC-007-2009 マルチピクチャフォーマット
	動画	AVI（Open DML Motion JPEG フォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEG ベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写、セルフタイマー（作動時間：約 10 秒／約 2 秒／カスタムセルフ）、インターバルタイマー（撮影間隔：5 秒～ 1 時間、5 秒単位）*3、カラーブラケット、フォーカスブラケット、AE/AF ターゲット移動、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、電子水準器
その他主要再生機能		一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大 16 倍）、画像サイズ変更、レベル補正、ホワイトバランス補正、斜め補正、トリミング、画像クリップ、スライドショー、DPOF 設定
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ対応 *4、AV OUT 1.0Vp-p（75 Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL 切り替え
電源		電池（DB-100）：3.7V
		AC アダプター（AC-5b　オプション）：3.8V
電池寿命 *5		CIPA 規格準拠　DB-100 使用時：約 310 枚 （[画像モニター節電］が［ON］のとき *6）
外形・寸法		101.5mm（幅）× 58.3mm（高さ）× 29.4mm（奥行き）（CIPA ガイドラインによる）
質量		約 206g（付属電池および SD メモリーカードを含む） 約 185g（本体のみ）
三脚ネジ穴形状		1/4-20UNC
デート保持時間		約 1 週間
使用温度範囲		0℃～ 40℃
使用湿度範囲		85% 以下
保存温度範囲		-20℃～ 60℃

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 DCF 準拠、DPOF 対応。DCF は JEITA で標準化された Design rule for Camera File system の略称です。（機器間の完全な互換性を保証するものではありません）
*3 フラッシュ OFF 時
*4 マスストレージは、Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Mac OS 9.0 ～ 9.2.2, Mac OS X 10.1.2 ～ 10.6.1 に対応しています。
*5 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
*6 ［画像モニター節電］が［OFF］の場合は、約 290 枚となります。

海外でお使いのときは

AC アダプター（型名：AC-5b)、充電器（型名：BJ-10）について

交流 100 ～ 240V、50Hz/60Hz の地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生などで現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属の AV ケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式は NTSC と PAL に対応しています。現地のテレビ環境に合わせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

内蔵メモリー／ SD メモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／ SD メモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画像サイズ	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
SCENE（文字以外）S-AUTO（連写）DR	10M 4:3F	22	242	491	965	1973	3953	7930
	10M 4:3N	38	414	842	1653	3379	6769	13579
	9M 3:2F	25	272	553	1087	2222	4452	8930
	7M 1:1F	30	323	653	1284	2624	5257	10546
	7M 16:9F	30	323	653	1284	2624	5257	10546
	5M 4:3F	34	373	758	1490	3045	6101	12238
	3M 4:3F	54	581	1182	2321	4744	9503	19063
	1M 4:3F	98	1059	2118	4160	8505	17039	34181
	VGA 4:3F	402	4316	8778	17237	35231	70579	141581
（［フォーカス］が［マルチターゲット AF］のとき）	10M 4:3F	22	240	487	957	1957	3922	7867
	10M 4:3N	38	408	830	1631	3333	6678	13396
	9M 3:2F	25	269	548	1077	2202	4412	8851
	7M 1:1F	29	319	647	1270	2596	5202	10435
	7M 16:9F	29	319	647	1270	2596	5202	10435
	5M 4:3F	34	368	749	1471	3008	6026	12089
	3M 4:3F	53	570	1159	2277	4654	9324	18704
	1M 4:3F	94	1023	2047	4022	8221	16471	33042
	VGA 4:3F	352	3776	7681	15082	30828	61759	123888
SCENE（文字）	10M 4:3	38	414	842	1653	3379	6769	13579
	3M 4:3	99	1078	2194	4309	8809	17647	35402
	HD 1280	17 秒	3 分 3 秒	6 分 14 秒	12 分 14 秒	25 分 1 秒	50 分 7 秒	100 分 33 秒
	VGA 640	50 秒	8 分 55 秒	18 分 8 秒	35 分 38 秒	72 分 50 秒	145 分 54 秒	292 分 41 秒
	QVGA 320	2 分 1 秒	21 分 39 秒	44 分 2 秒	86 分 28 秒	176 分 44 秒	354 分 3 秒	710 分 13 秒
（M 連写プラス（10M））	10M 4:3N	38	414	842	1653	3379	6769	13579
（M 連写プラス（2M））	2M 4:3N	133	1438	2926	5746	11745	23530	47202
（超高速連写）	VGA 4:3N	705	7553	15359	30159	61643	123489	247716

メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間の目安です。1 回の撮影で記録可能な動画は、最大 29 分までです。
- 連写の最大連続撮影可能枚数は、999 枚です。残り記録枚数が 1000 枚以上ある場合でも、画像モニターには「999」と表示されます。
- M 連写プラス（2M）／ M 連写プラス（10M）、超高速連写の記録可能枚数は、合計の記録可能枚数の目安です。1 回の撮影での最大連続撮影可能枚数は、M 連写プラス（2M）は 26 枚、M 連写プラス（10M）は 15 枚、超高速連写は 120 枚までです。
- マルチターゲット AF の記録可能枚数は、合計の記録可能枚数の目安です。1 回の撮影での記録可能枚数は、5 枚です。残り記録枚数が 9999 枚以上ある場合でも、画像モニターには「9999」と表示されます。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたは SD メモリーカード）の容量や撮影条件、SD メモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。
- 画像サイズは用途に合わせて選択してください。

画像サイズ	向いている用途
10M 4:3F ／ 10M 4:3N ／ 9M 3:2F ／ 7M 1:1F ／ 7M 16:9F	• 大きくプリントする • パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
5M 4:3F ／ 3M 4:3F	• プリントする
1M 4:3F	• 枚数を多く撮る
VGA 4:3F	• 枚数を多く撮る • メールに添付する • ホームページ用の画像として使用する

付録

10

初期値／電源オフで初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。

次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
撮影	ダイナミックレンジ拡大効果	○	AUTO
	＋通常撮影	○	OFF
	画質・サイズ	○	10M 4:3N
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	10M 4:3
	動画サイズ	○	HD 1280
	フォーカス	○	マルチ AF
	プレ AF	○	OFF
	測光	○	マルチ
	画像設定	○	スタンダード
	ノイズリダクション	○	AUTO
	フラッシュ調光補正	○	0.0
	オートブラケット	○	OFF
	長時間露光	○	OFF
	カスタムセルフ	○	撮影枚数：2 枚、 撮影間隔：5 秒
	インターバル撮影	×	0 秒
	手ブレ補正	○	ON
	スローシャッター速度制限	○	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	マルチパターン AUTO
	ISO 感度	○	AUTO
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	AUTO
	セルフタイマー	×	セルフ　オフ
再生	音量	○	ー

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
セットアップ	画像モニター輝度調節	○	－
	マイセッティング登録	○	－
	ステップズーム	○	OFF
	Fn ボタン設定	○	マクロターゲット
	ADJ. ボタン設定 1	○	露出補正
	ADJ. ボタン設定 2	○	ホワイトバランス
	ADJ. ボタン設定 3	○	ISO
	ADJ. ボタン設定 4	○	画質
	ISO AUTO 上限設定	○	AUTO 1600
	AF 補助光	○	ON
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	■■□（中）
	画像確認時間	○	0.5 秒
	オートパワーオフ	○	5 分
	画像モニター節電	○	ON
	グリッドガイド表示設定	○	田
	デジタルズーム切替	○	通常
	水準器設定	○	表示のみ
	撮影情報表示フレーム	○	OFF
	最短撮影距離表示	○	表示
	縦横自動回転再生	○	ON
	白とび警告表示	○	OFF
	カード連続 NO.	○	OFF
	日時設定	○	－
	Language ／言語	○	(*1)
	ビデオ方式	○	(*1)

(*1) 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

付録

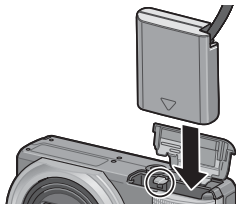
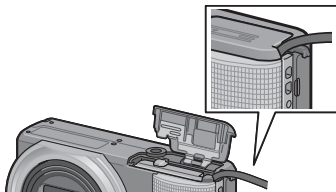
10

AC アダプターについて（別売り品）

動画撮影やインターバル撮影をする際、画像を見る際などカメラを長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、別売りの AC アダプターを使うことをお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認し、電池／カードカバーをスライドさせて開ける

2 AC アダプターを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

3 電源（DC 入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

4 電池／カードカバーを閉じて電源プラグをコンセントに差し込む

注意 --

- 電源プラグや AC コードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、AC アダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中に AC アダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- AC アダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- AC アダプターの使用中は、AC アダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

AC アダプターを取り出すには

AC アダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。電源プラグをコンセントから抜き、電池／カードカバーをスライドさせて開けます。AC アダプターをロックしているツメをずらすと AC アダプターが押し出されますので、つまんで取り出します。このとき AC アダプターが落下しないよう十分に注意してください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。結露が発生した場合は、カメラから電池とメモリーカードを取り出し、水滴が消えるまで待ってから使用してください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。
- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手でカメラを操作しないでください。故障や感電の原因となります。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備の電池の携帯等をお勧めいたします。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接当たるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れが付くと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れが付いたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用した後は、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナー（有機溶剤の含まれていないもの）を、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池や AC アダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、当社修理受付窓口かお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除などによる故障
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧などによる故障
   ④ 浸（冠）水、塩害、液体（雨水、ジュース、酒類など）かぶり、落下、衝撃、砂（泥）入り、圧力などによる自然故障以外の故障
   ⑤ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池などの液漏など、カビ発生、手入れの不備などによる故障
   ⑥ 保証書の添付のない場合
   ⑦ 販売店名、ご購入年月日などの記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本カメラに関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証期間内であっても、本カメラについて各部点検、精密検査などを特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
5. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップなどの付属品類および本カメラに付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
6. メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについて一切の保証はできませんので、修理にお出しになる場合には、データのバックアップをお取りください。
7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本カメラの使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
9. 販売店が独自に設けている延長保証は、本カメラの保証規定には適用されません。
10. 本カメラの補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5 年を目安に保有しております。
11. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下などで損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるものなどは修理できない場合もあります。ご了承ください。
12. 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございます。

修理にお出しになる前

- 電池の消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- ホームページに最新の情報が掲載されていますのであわせてご確認ください。ホームページのアドレスは、使用説明書の巻末に記載されています。

修理にお出しになる際

- 故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。

索引

記号・英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

保証規定

1. 本製品が万一故障した場合はご購入日から満 1 年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か当社修理受付窓口にお申し出ください。なお、お買い上げ店または当社修理受付窓口にご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。
2. 以下の場合は、上記期間内でも保証の対象とはなりません。
   (1) 使用上の誤り（使用説明書以外の誤操作など）により生じた故障
   (2) 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除などによる故障
   (3) 火災、天災、地変、落雷、異常電圧などによる故障
   (4) 浸（冠）水、塩害、液体（雨水、ジュース、酒類など）かぶり、落下、衝撃、砂（泥）入り、圧力などによる自然故障以外の故障
   (5) 保管上の不備（使用説明書に記載）や、電池などの液漏等、カビ発生、手入れの不備などによる故障
   (6) 裏面の保証書（以下、本保証書と記す）の添付のない場合
   (7) 販売店名、ご購入年月日などの記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証の対象となる部分は本体のみでストラップなどの付属品類および本カメラに付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象とはなりません。
4. メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについて一切の保証はできませんので、修理にお出しになる場合には、データのバックアップをお取りください。
5. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本カメラの使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
6. 保証期間内であっても、本カメラについて各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
7. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   （This warranty is valid only in Japan）
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
8. 本保証書は再発行いたしません。

ご注意

＊当製品の修理に関するお問い合わせは、販売店または当社修理受付窓口までご連絡ください。
＊本保証書をお受け取りの際は、販売店名および購入年月日等が記入されているかどうかをご確認ください。もし、記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げ店へお申し出ください。
＊部品の保有期間等アフターサービスに関する事項については、「アフターサービスについて」をご覧ください。
＊保証期間経過後の修理等についてのお問い合わせは、当社修理受付窓口をご利用ください。
＊修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございます。
＊販売店が独自に設けている延長保証は、当保証規定には適用されません。
＊本保証書は上記の保証規定により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お願い

1. 「リコー修理受付センター」ならびに「カメラサービスセンター」では、デジタルカメラの故障に関する事項、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。
2. 修理以外の、製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せは、「リコーお客様相談センター」までお願い申し上げます。
3. 修理に関する詳細につきましては、本使用書の「保証規定」ならびに、「アフターサービスについて」をご一読いただきますようお願いします。
4. 「リコー修理受付センター」ならびに各「リコーカメラサービスセンター」への修理のお申し込みは、日本国内のみ有効です。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。

デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

Li-ion 00

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ホームページによる情報提供

■ 製品情報
　http://www.ricoh.co.jp/dc/

■ Ricoh Photo Style（活用＆コミュニティ）
　http://www.ricoh.co.jp/dc/photostyle/

■ サポート総合案内
　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/

■ 修理総合案内（修理料金概算などの修理全般の情報）
　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

お困りのときは

使用説明書の「お困りのときは」をご覧ください。問題が解決しないときには、下記にてご確認ください。

■ よくあるご質問（FAQ）
　製品の操作・活用について　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/faq/
　故障かなと思ったら　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/faqs/

■ リコーお客様相談センター
　ホームページ受付　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/contact/
　0120 FreeDial 電話 0120-000475　FAX 0120-479417
　受付時間：9:00 ～ 18:00（土曜、日曜、祝祭日、弊社休業日を除く）
　※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

■「Irodio Photo & Video Studio」について
　株式会社ピクセラ　ナビダイヤル：0570-02-3500　電話：06-6633-2990
　受付時間： 月曜日～日曜日 10:00 ～ 18:00
　（年末年始、祝祭日、株式会社ピクセラ指定休日は除く）

修理受付

■ ホームページ／電話による修理受付
（梱包材と宅配伝票をお送りして修理品をお引き受けします）

リコー修理受付センター（リコーテクノシステムズ株式会社）
< ホームページ受付 > http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/mail.html
0120 FreeDial < 電話受付 > 0120-053956　受付時間 9:00 ～ 17:00
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）
※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

■ 持ち込みによる修理受付
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

リコー銀座カメラサービスセンター
　〒 104-0061　東京都中央区銀座 6-14-7 第 3 リコービル 1 階
　受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 03-3543-4187

リコー大阪カメラサービスセンター
　〒 564-0053　大阪府吹田市江の木町 34-5 リコービル 7 階
　受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 06-6338-9092

株式会社リコー
〒 104-8222
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル
2010 年 2 月

JA Printed in China